

第3学年の「文学的文章の読みの力」について

目 次

| | |
|-------------------------------------|----|
| I 研究の目的 | 5 |
| II 研究の内容と方法 | 5 |
| 1. 研究の対象としてとりあげた調査問題とそのねらい, および正答率 | 5 |
| 2. 応答調査のねらいと方法 | 8 |
| (1) 応答調査のねらい | 8 |
| (2) 応答調査の対象とその方法 | 8 |
| 3. 分析的問題とそのねらい, および正答率 | 8 |
| 4. 分析的問題による調査の方法, 対象生徒, および時期 | 14 |
| 5. 付帯調査の方法と時期 | 15 |
| III 研究の結果とその考察 | 15 |
| 1. 調査問題① 1, 2について | 15 |
| (1) 応答にあらわれた問題点 | 16 |
| (2) 分析的問題① 1, 2および② 1(1), (2)と結果の考察 | 17 |
| 2. 調査問題① 3について | 20 |
| (1) 応答にあらわれた問題点 | 20 |
| (2) 分析的問題① 3, および② 2(1), (2)と結果の考察 | 21 |
| 3. 調査問題① 5について | 24 |
| (1) 応答にあらわれた問題点 | 24 |
| (2) 分析的問題① 5, および② 3と結果の考察 | 25 |
| 4. 調査問題① 4について | 29 |
| (1) 応答調査結果の考察 | 29 |
| (2) 分析的問題① 4, ② 1(3), および④と結果の考察 | 30 |
| (3) 文学的文章における心情を読み味わうことについて | 40 |
| 分析的問題⑤, ③, ⑥と結果の考察 | |
| IV ま と め | 46 |

I 研究の目的

国語科の読解指導で、文学的文章の心情を読み味わうことについての指導は、最も重要であり、しかも、むずかしい領域・分野の一つである。文学的文章の指導の成否は、文字・語句・文・文章などに関する基礎的な読みの力によることはもちろん、読解指導をとおして生徒が心情を味わい、自己の人間性を形成することとたいそう関係が深い。

しかるに、文学的文章の解釈や指導の方法についての説は多岐にわたり、国語教育学界でも、実際指導の場でも決定的な意見の一致がみられない現状である。

このことから今年度は、40年度全国学力調査の文学的文章に関する問題を取りあげ、次の目的で分析的研究を行なった。

- a 生徒の文学的文章の基礎的な読解の様相を検討すること
- b 生徒の文学的文章における心情を味わう様相を検討すること
- c 文学的文章の指導上の留意点とその評価のあり方の改善をはかること

以下40年度全国学力調査問題を調査問題といい、個々の問題を示す大問①の4の場合は、調①4のように示す。同様、分析的問題の場合は、分①4のように示す。

II 研究の内容と方法

1 研究の対象としてとりあげた調査問題とそのねらい、および正答率

| | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 第3学年 大問① 文学的文章に 関する問題 | 1 「文脈の中での語句の意味や用法の理解」をみる問題 |
| | 2 “ ” |
| | 3 「文脈の中での文の意味や用法の理解」をみる問題 |
| | 4 「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう力」をみる問題 |
| | 5 「文章の中に書かれている情景を読み味わう力」をみる問題 |

調査問題および分析的問題は縦書きで提出されたものであるが、本稿では、両者とも横書きで述べた。各問題の右のらんにある

| | |
|----|--|
| 本県 | |
| 全国 | |

 の中に示した数値は本県平均正答率、全国平均正答率を示す。

① 次の文章を読んで、あとの1, 2, 3, 4, 5の問いに答えなさい。答えは、ア、イ、ウ、エ、オの中から、最も適当なものを一つずつ選んで、解答用紙のその記号を○で囲みなさい。

「『夜の青果市場』なんて、おもしろい絵ができそうじゃないか。ほくも、一度見に行ってみよ

う。」私は乗り気を示した。

「一度見にいっしょと、おもしろいと思います。昼間はやっていません。夜だけです。」

「お百姓さんたちが、昼間は野で働いていて、夜しか来られないからだろうねえ。」

「野に直結した市場だから、よそにある大きな市場なんかより、かえって趣があると思います。」

「ぼくが興味を持つのも、⁽¹⁾そこなんだ。野菜なんかもずっと新鮮だろうねえ。」

「新鮮ですよ。あの大根やにんじんの色が表現できたらすばらしいと思うんですが、まだとてもできません。」と言って、画学生はしょげながら頭をかいた。

「それはきみに限らないことで、画家を志す以上、だれでもいっしょうけんめい⁽²⁾取り組むべき問題だよ。」と言って、私は慰めた。

ことに日照りの激しかった晩、私は青果市場に向かった。

青果市場は、暗い夜闇^{やみ}の中に、そこだけ明るく浮き出ている。まわりに木立ちがあるので、ひときわ濃い夜闇だった。せりをするざわめきも聞こえてきた。市場の前にはトラックをはじめ、オート三輪、リヤカー、自転車などがごちゃごちゃとしていて、その間を縫うて行かねばならなかった。

市場は棟^{むね}の高い仮小屋で、その広い土間に並べられた野菜の列を目にした瞬間、私はそのみごとに我を忘れてしまった。大根の白、キャベツの青、にんじんの赤、ごぼうの黒、ねぎの白、トマトの赤、きゅうりの青などが、目のさめるような一盛り一盛りを入り交じらせて、それが幾列にも並んでいるのだった。[]、かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。ピーマンや水蜜桃^{みづもも}やしょうがなども添えられていた。みょうがの芽などは、小さなざるに入れられていた。私は、やお屋の前を通りすがりながら、しばしばそこに並べられてある野菜の美しさに目を奪われるのだが、今となっては、物の数ではないように思われてきた。なによりそのみずみずしさ、しかもそれが一盛り一盛りの量から輝いているのだから、やお屋の店頭とは比べものにならぬはずだった。

せりは、この野菜の列の間で、一盛り一盛りについて行なわれた。仲介人^{はく}とでもいふべき男を中心に、ねじ鉢巻きや裸になったやお屋たちがひとかたまりになって、口々に値をせりながら、徐々に移動した。

ふと気づくと、ひとりの⁽³⁾手ぬぐいかぶりをした老婆が、せりのかたまりの近づく先で、ふとつたねぎの白根を一本一本布ぎれでふいていた。きれいに濯^{すす}がれて、みがききったように見えるねぎを、そのうえにまたぬぐっているのだった。自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取られた。牛や馬の仔^こを市へ売りに行つて、別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであつた。

1 ⁽¹⁾そこなんだ。の「そこ」とは、どんなことをさすか。

ア ほかの大きな市場のように趣があること

イ 夜だけ開いているおもしろい市場であること

ウ 青果市場は絵をかくのに適していること

エ お百姓さんがせりをする市場であること

| | |
|----|------|
| 本県 | 77.0 |
| 全国 | 78.6 |

オ 野らに直結している市場で趣も深いこと

2 (2) 取り組むべき問題とは、どういうことか。

ア いつも新鮮な野菜を材料として美しい絵をかくということ

イ 野菜などの自然の色どりをいきいきと表現するということ

ウ 大根やにんじんの形をたくみに表現するということ

エ 市場にあるいろいろな野菜を数多く絵にかくということ

オ 野らからとってきたままの野菜をていねいにかくということ

| | |
|----|------|
| 本県 | 76.1 |
| 全国 | 76.2 |

3 文章の中の に入れることばとして、次のどれがよいか。

ア お百姓さんが野らで働いていて

イ セリをする人がざわめいていると

ウ 画学生が自分の無力をなげいていたが

エ 市場の人がたくさんな野菜をならべても

オ 私がそのみごとさに驚いたにもせよ

| | |
|----|------|
| 本県 | 46.5 |
| 全国 | 49.4 |

4 次の a, b, c, d, e の中には、(3) 手ぬぐいかぶりをした老婆の気持ちを表わしたものが二つある。その二つを組み合わせたものとして、次のどれがよいか。

- a 自分が持ってきた野菜が高く売れないのでこまる。
- b 野菜の売り値をなるべく安くして、お客を喜ばせたい。
- c 売れ残った野菜と見えないように、よく洗っておこう。
- d 野菜をきれいにふいて、できるだけよい値で売ろう。
- e 手放すときまで、抜いに心をこめてたいせつにしたい。

ア a と b イ b と c ウ c と d

エ d と e オ e と a

| | |
|----|------|
| 本県 | 80.2 |
| 全国 | 82.1 |

5 この文章の中にある描写として、あてはまらないものが、次の中に一つある。それは、どれか。

ア 昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。

イ 市場の外の様子や老婆の動作を描いている。

ウ 市場の内部の光景を目に浮かぶように描いている。

エ さまざまな色彩や人々の動きを描いている。

オ 夜の市場の内と外との光景を描いている。

| | |
|----|------|
| 本県 | 47.1 |
| 全国 | 51.4 |

2 応答調査のねらいと方法

(1) 応答調査のねらい

国語の全国学力調査の分析的研究のねらいにもとづき、研究の対象として第3学年の文学的文章に関する問題を取りあげた。この研究のねらいと、対象とした調査問題とを各問題の相互関係や第2学年との関連にたってみるため、以下述べる方法で応答調査を行なった。

(2) 応答調査の対象とその方法

① 応答調査を行なった問題

a 第3学年

① 1・2・3・4・5 ② I 1・2 ② II 1・2 ③ I 1・2 ④ I 1・2

④ II 1・2

b 第2学年

① 1・2・3・4・5 ② 1・2・3・4・5 ③ I 1・2 ④ I 1・2 ④ II 1・2

② 応答調査の対象にした生徒

2年、3年とも、3か校より1学級ずつ計3学級の生徒全員を対象とした。

2年、130人、3年、132人

③ 応答調査実施の時期

昭和40年7月

以下調査問題の応答率、正答率などとあるのは、この応答調査の結果のことを指す。

3 分析的問題とそのねらい、および正答率

① 1 文学的文章「文脈の中での語句の意味や用法の理解」

2

”

3

「文脈の中での文の意味や用法の理解」

4

「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう力」

5

「文章の中に書かれている情景を読み味わう力」

① は調査問題と同じ

② 1 (1) 「生徒の調査問題に回答したときの文章の読み取りや考え方をみる」

(2)

”

(3)

”

2 (1)(2) 「生徒が分①3で に入れる選択肢を選んだ根拠とその前後の文

章の読み方をみる。」

- 3 (1) 「生徒が文章全体に書いてある事からや情景を，どの程度正しく読み取り，
(2) 読み味わっているかをみる。」
(3) “
(4) “

③ 「この文章全体の表現から生徒はどのように心情を読み味わうかみる。」なお，この問題の補足として⑥も考え合わせる。

- ④ 1 (1) 「この文章の最後の段落に出てくる語句の理解力と分① 4 の老婆の心情を
(2) み味わう力との関係を見る。」
(3) “
(4) “
(5) “

2 「この文章の最後の段落に出てくる語句や文の理解力と分① 4 の老婆の心情
3 を読み味わう力との関係を見る。」

4 “

5 “

⑤ 「この文章の最後の段落の老婆の気持ちを生徒各自はどう感じ取っているか
をみ，分① 4 の老婆の心情を読み味わう力との関係を見る。」

⑥ 「この文章全体をとおして生徒各自はどのような受け取り方をしているかをみ，
各分析的問題の参考にする。」

各問題の右らんにある数値は調査対象生徒100人の正答率と正答人数とを示す。

次の本文を読んで①から⑥までの問いに答えなさい。

本文

「『夜の青果市場』なんて，おもしろい絵ができそうじゃないか。ぼくも，一度見に行ってみよう。」私は乗り気を示した。

「一度見にいっちゃると，おもしろいと思います。昼間はやっていません。夜だけです。」

「お百姓さんたちが，昼間は野らで働いていて，夜しか来られないからだろうねえ。」

「野らに直結した市場だから，よそにある大きな市場なんかより，かえって趣があると思

① います。」

「ぼくが興味を持つのも，⁽¹⁾そこなんだ。野菜なんかもずっと新鮮だろうねえ。」

「新鮮ですよ。あの太根やにんじんの色が表現できたらすばらしいと思うんですが，まだと
てもできません。」と言って，画学生はしょげながら頭をかいた。

「それはきみに限らないことで，画家を志す以上，だれでもいっしょうけんめい⁽²⁾取り組む
べき問題だよ。」と言って，私は慰めた。

／ ことに日照りの激しかった晩，私は青果市場に向かった。

青果市場は，暗い夜闇^{やみ}の中に，そこだけ明るく浮き出ている。まわりに木立^こちがあるので，

② ひときわ濃い夜闇だった。せりをするざわめきも聞こえてきた。市場の前にはトラックをはじ

め、オート三輪、リヤカー、自転車などがごちゃごちゃとしていて、その間を縫うて行かねばならなかった。

市場は棟の^{むね}高い仮小屋で、その広い土間に並べられた野菜の列を目にした瞬間、私はそのみごとさに我を忘れてしまった。大根の白、キャベツの青、にんじんの赤、ごぼうの黒、ねぎの白、トマトの赤、きゅうりの青などが、目のさめるような一盛り一盛りを入り交じらせて、それが幾列にも並んでいるのだった。[]、かれがたとい百年

③ かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。ピーマンや水蜜桃^{みつ}やしょうがなども添えられていた。みょうがの芽などは、小さなざるに入れられていた。私は、やお屋の前を通りすがりながら、しばしばそこに並べられてある野菜の美しさに目を奪われるのだが、今となっては、物の数ではないように思われてきた。なによりそのみずみずしさ、しかもそれが一盛り一盛りの量から輝いているのだから、やお屋の店頭とは比べものにならぬはずだった。

④ せりは、この野菜の列の間で、一盛り一盛りについて行なわれた。仲介人とでもいうべき男を中に、ねぎ鉢^{はち}巻きや裸になったやお屋たちがひとかたまりになって、口々に値をせりながら、徐々に移動した。

⑤ ふと気づくと、ひとりの⁽³⁾手ぬぐいかぶりをした老婆が、せりのかたまりの近づく先で、ふとったねぎの白根を一本一本布ぎれてふいていた。きれいに濯^{すす}がれて、みがききったように見えるねぎを、そのうえにまたぬぐっているのだった。自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取られた。牛や馬の仔^こを市へ売りに行つて、別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであった。

① 次の1から5までの問いに答えなさい。答えは、ア、イ、ウ、エ、オの中から、最も適当なものを一つずつ選んで、その記号を○で囲みなさい。

1 (1) そこなんだ。の「そこ」とは、どんなことをさすか。

ア ほかの大きな市場のように趣があること

イ 夜だけ開いているおもしろい市場であること

ウ 青果市場は絵をかくのに適していること

エ お百姓さんがせりをする市場であること

オ 野らに直結している市場で趣も深いこと

正答 オ

87

2 (2) 取り組むべき問題とは、どういうことか。

ア いつも新鮮な野菜を材料として美しい絵をかくということ

イ 野菜などの自然の色どりをいきいきと表現するということ

ウ 大根やにんじんの形をたくみに表現するということ

エ 市場にあるいろいろな野菜を数多く絵にかくということ

オ 野らからとってきたままの野菜をていねいにかくということ

正答 イ

84

3 文章の中の に入れることばとして、次のどれがよいか。

- ア お百姓さんが野らで働いていて
- イ せりをする人がざわめいていると
- ウ 画学生が自分の無力をなげいていたが
- エ 市場の人がたくさんな野菜をならべても
- オ 私がそのみどとさに驚いたにもせよ

正答 ウ

46

4 次の a, b, c, d, e の中には, (3) 手ぬぐいかぶりをした老婆の気持ちを表わしたものが二つある。その二つを組み合わせたものとして、次のどれがよいか。

- a 自分が持ってきた野菜が高く売れないのでこまる。
- b 野菜の売り値をなるべく安くして、お客を喜ばせたい。
- c 売れ残った野菜と見えないように、よく洗っておこう。
- d 野菜をきれいにふいて、できるだけよい値で売ろう。
- e 手放すときまで、扱いに心をこめてたいせつにしたい。

- ア aとb イ bとc ウ cとd
- エ dとe オ eとa

正答 エ

81

5 この文章の中にある描写として、あてはまらないものが、次の中に一つある。それは、どれか。

- ア 昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。
- イ 市場の外の様子や老婆の動作を描いている。
- ウ 市場の内部の光景を目に浮かぶように描いている。
- エ さまざまな色彩や人々の動きを描いている。
- オ 夜の市場の内と外との光景を描いている。

正答 ア

53

② ①の問題について、次の1から3までの問いに答えなさい。

1 ①の1, 2, 4の答えは、それぞれ本文のどの表現から考えて選んだか、本文のその部分を の答えのらんに書き出せ。

(1) 1の場合

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

(2) 2の場合

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

(3) 4の場合

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

- 2 [1] の3で選んだ答えを本文に入れたとき、それに続く「かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」の文について、次の(1), (2)の問いに答えよ。

(1) 「かれ」とは、誰をさすか。

答え

(2) 「寄りつけそうにはない美しさ。」とは、どういう意味か。

答え

- 3 本文は、□〔のしるしによって五つの部分にくぎられている。

次の(1)から(4)までのそれぞれについて、本文の中でよく描かれている部分はどこか。本文にある□の上の番号を下の□に書き入れよ。あてはまる部分がないときは、書き入れないでよい。

- | | | | |
|---------------------------------|---|--------|----|
| (1) 主として、市場の外の光景を描いている部分 | □ | 正答 [2] | 78 |
| (2) 主として、市場の昼と夜との様子を対照的に描いている部分 | □ | 正答 □ | 40 |
| (3) 主として、市場のせりの人々の動きを描いている部分 | □ | 正答 [4] | 77 |
| (4) 主として、市場の野菜の美しさ、新鮮さを描いている部分 | □ | 正答 [3] | 86 |

- [3] 本文全体をとおして、作者が書こうとしていることはどういうことか。左のアからカまでの文のうち、あなたの考えに最も近いものを一つ選んで、その記号を○で囲みなさい。

ア 野らに直結した夜の青果市場の野菜の新鮮な美^{はく}しさと、それらをめぐる人々の素朴な気持ち。

イ 野菜を売る老婆や、牛や馬の仔^こを売る人々のそれを手放すときのまじめで、愛情こまやかな気持ち。

ウ 画学生と作者とのしんけんで美しい心の通じあい。

エ 画学生や作者が、百年かかっても寄りつけそうにはない野菜の新鮮さと美しさ。

オ 画学生と作者とが、野菜などの自然の色どりを、いきいきと、絵に表現しようとしているしんけんな態度。

カ 夜の青果市場でのせりの様子や、やお屋たちのいそがしさ。

正答 ア

58

- [4] 本文の [5] 〔の部分を読んで、1から5までの問いに答えなさい。答えは、ア、イ、ウ、エの中から、最も適当なものを、それぞれ一つずつ選んで、その記号を○で囲みなさい。

- 1 次の(1)から(5)までのことばの意味としてどれがよいか。

- (1) みがききった {
- ア みがくことをやめた
 - イ みがいてもきりがなかった
 - ウ よくみがいてあった
 - エ もうみががなくてもよいほどみがいてあった

正答 エ

86

- (2) 引き立たせて {
 ア 引いてまっすぐにして
 イ りっぱに見えるようにして
 ウ 立てかけるようにして
 エ 目に見えるようにして

正答 イ

86

- (3) 丹精している {
 ア 心をおちつけてみがいている
 イ 心をこめてみがいている
 ウ 心をしずめてみがいている
 エ 心をいらだたせてみがいている

正答 イ

85

- (4) 愛着 {
 ア かわいいような惜しいような気持ち
 イ かわいそうで同情する気持ち
 ウ かわいくて心ひかれる気持ち
 エ かなしいようなさびしいような気持ち

正答 ア・ウ

72

- (5) 同じ心理 {
 ア 同じ理論
 イ 同じ気持ち
 ウ 同じ心がけ
 エ 同じ苦しみ

正答 イ

84

2 「少しでも高値でせり落とさせよう。」の意味として、次のどれがよいか。

- ア 値だんを競わせて少しでも高い値だんに買い手をきめよう。
 イ 高い値だんのものを少しでも安くするようにして客を喜ばせよう。
 ウ 高い値だんのものを少しでも安くして買って買う人をきめさせよう。
 エ 少しでも高い値だんになるように競争させよう。

正答 ア

51

3 「そうとばかりは言えなさそうだった。」のそうは何をさしているか。

- ア ねじ鉢巻きの人々がいっしょうけんめいに、野菜の値だんをきめていたこと。
 イ 手放すときになって最後の愛着をこめていたこと。
 ウ せりのかたまりが近づいてくる先で老婆がねぎをぬぐっていたこと。
 エ 自分のねぎを引き立たせ、少しでも高値で売ろうと丹精していたこと。

正答 エ

79

4 「別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理……。」と書いてあるが、傍線の部分は次のどれと同じ心理か。

- ア 自分のねぎを引き立たせて少しでも高値でせり落とさせようとしていること。
 イ 牛や馬の仔を市に売り出そうとして愛情をこめて育てていること。
 ウ 自分の手で育てたねぎを手放すとき、ていねいにぬぐって丹精していること。
 エ 野菜を青果市場へ売り出すために、野らから運んでいること。

正答 ウ

74

5 「最後の愛着をこめているものとも受け取られた。」の傍線の部分の意味として次のどれがよいか。

- ア …………… いるように感じられた。
 イ …………… いるようにも考えさせられた。
 ウ …………… いるようにも感じられた。
 エ …………… いるように考えられた。

| | |
|----|----|
| 正答 | ウ |
| | 73 |

⑤ 本文の ⑤〔の部分の中で、老婆がねぎを一本一本ふいているのを見て、作者は、「自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。……………」と書いていますが、あなた自身は、この老婆はどんな気持ちでねぎをぬぐっているのだと思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを一つだけ選んで、その記号を○で囲みなさい。

- ア 自分が持ってきた野菜を少しでも高く売りたい気持ち。
 イ 自分が持ってきた野菜を少しでもきれいにして、お客を喜ばせたい気持ち。
 ウ 自分の持ってきた野菜が、高く売れないので困ったなという気持ち。
 エ 自分の持ってきた野菜が、売れ残った野菜と見えないようにしたい気持ち。
 オ これまで自分の手で育てた野菜なので、売るのが惜しいような気持ち。
 カ これまで自分の手で育ててきた野菜なので最後まで手をかけてやりたい気持ち。

| | |
|----|----|
| 正答 | カ |
| | 68 |

⑥ 最後に、もう一回本文全体を読み通して、あなたが強く感じたところを中心にして感想文を書きなさい。

タテ卦20行用紙

4 分析的問題による調査の方法，対象生徒，および時期

(1) 分析的問題による調査方法

本文・問題紙 ①・②・③ 配布 問題紙 ①・②・③ 回収

← 50分 → × 10分 →

問題紙 ④・⑤・⑥ 配布 本文・問題紙 ④・⑤・⑥ 回収

← 50分 →

(2) 分析的問題による調査の対象生徒

中学校3校、3年各1学級、計132人に行ない、その中から無作為抽出により男子50人、女子50人、計100人を選出し、その生徒について、その結果の処理を行なった。この対象にした132人は応答調査の対象にした生徒と同じ。

(3) 分析的問題による調査の時期

昭和40年9月

なお調査問題は6月に受けているので、この分析的問題の実施まで約3か月を経過している。

または付帯調査の担任教師との話し合い、生徒との面接はそれよりさらに2～3か月経過している。

5 付帯調査の方法と時期

(1) 実施の方法

分析的問題実施の3校校のうちの2校校につき、学級主任、国語担任教師と、1時間にわたり面接し、ついで、同校の分析的問題による調査を受けた中から10人ずつ選び、40分間、個々の生徒、および全体の生徒と話し合いをした。

(2) 実施の時期

昭和40年11月～12月

Ⅲ 研究の結果とその考察

研究の目的の章で述べたように、40年度の分析的研究には文学的文章を取り上げ、生徒の文学的文章の読み取り方、特に、心情を読み味わう力と様相とをとらえ、問題の吟味とともにその指導法のあり方の改善を図るねらいをもって行なった。したがって、3年の調①4を中心に、調①1・2・3・5の分析も行ない、さらに、2年の調②4の応答を検討した。文学的文章一般の読みの力、思考の傾向などをみるため、調①の1から2・3・5についての結果の考察を述べ最後にこれらを概括して調①4の文学的文章の心情を読み味わう問題にふれ結論としたい。

1 調査問題①1・2について

①

1 (1) そこなんだ の「そこ」とは、どんなことをさすか。

ア ほかの大きな市場のように趣があること

応答数 12

イ 夜だけ開いているおもしろい市場であること

〃 0

ウ 青果市場は絵をかくのに適していること

〃 6

| | | |
|----------------------|-----|----|
| エ お百姓さんがせりをする市場であること | 応答数 | 4 |
| ㊦ 野らに直結している市場で趣も深いこと | " | 77 |
| | 無 答 | 1 |

2 (2) 取り組むべき問題とは、どういうことか。

| | | |
|-------------------------------|-----|----|
| ア いつも新鮮な野菜を材料として美しい絵をかくということ | 応答数 | 10 |
| ㊦ 野菜などの自然の色どりをいきいきと表現するということ | " | 70 |
| ウ 大根やにんじんの形をたくみに表現するということ | " | 14 |
| エ 市場にあるいろいろな野菜を数多く絵にかくということ | " | 5 |
| オ 野らからとってきたままの野菜をていねいにかくということ | " | 1 |

選択肢記号の○は正答肢を示す。右の数値は対象生徒100人中の応答調査のときの応答人数を示す。以下同じ。

(1) 応答にあらわれた問題点

この調 ① 1, 2は, 「文脈の中での語句の意味や用法の理解」の力をみることがねらいとされている。

1と2とはそれぞれ100人中77人, 70人が正答で一応, 正答率が高いといえよう。全国平均正答率は78.6%, 76.2%でかなりのひらきがある。以下ことわりなく正答78人あるいは誤答10人など書いたときは, 調査対象生徒100人中の人数を示す。

1は「そこ」という指示することばの具体的な内容をたずねるものであり, 2は「取り組むべき問題」について, 1と同じような趣旨のことをたずねている。

1の問題で, アに12人もの生徒が誤答したことが注目される。これは, すぐ前の文を正しく読み取ればできるのであるが, 読みとりにていねいさを欠き, 「野らに直結した市場だから, よそにある大きな市場なんかより, かえって趣があると思います。」の文中の「よそにある大きな市場」「趣があると思います。」の語句と, 選択肢アの「ほかの大きな……趣があること」の文をつないだものと考えられる。したがって, 「野らに直結した市場だから, よそにある大きな市場なんかより, かえって趣があると思います。」の, 「から」「なんかより」「かえって」などのていねいな読みによる意味の把握がたりなかったものと思われる。また, 「『夜の青果市場』なんて……。」の冒頭文から一つ一つの文の関係の読みの不十分なことにも原因があると思われる。

2の問題に対する応答では, 誤答が, ア, ウに集中した。これは正答のイと表現内容が, 他の選択肢エ, オに比べ, より以ているところを誤解したものと思われる。どの選択肢を読んでも, 野菜を材料にして絵をかくことは容易にわかるが, 細かな点で文の感じが異なっている。アの文では, 「いつも」…「美しい絵……」, イの文では, 「自然の色どり」「いきいきと」, ウの文では, 「形をたくみに」と, ことばのもつ感じがちがう。この点を, いかにていねいに読み分けたかが, いや読み分ける力があつたかどうか夜の青果市場についての表現と関連して, 正答, 誤答の原因になっていると思われる。

(2) 分析的問題① 1, 2 および② 1 (1), (2) と結果の考察

調 ① 1・2 についての以上の問題をさらに究明するため、次の分 ① 1・2 と分 ② 1・(1)・(2)を行なった。分 ① 1・2・3・4・5 は、調 ① 1・2・3・4・5 と同じ。

次の本文を読んで ① から ⑥ までの問いに答えなさい。

本文は調 ① の文章と同じ(略)

分 ① 1 (1) そこなんだ。の「そこ」とは、どんなことをさすか。

| | | | |
|---|----------------------|-----|---------|
| ア | ほかの大きな市場のように趣があること | 応答数 | 4 (12) |
| イ | 夜だけ開いているおもしろい市場であること | " | 4 (0) |
| ウ | 青果市場は絵をかくのに適していること | " | 3 (6) |
| エ | お百姓さんがせりをする市場であること | " | 0 (4) |
| ④ | 野らに直結している市場であること | " | 87 (77) |
| | | 無 答 | 2 (1) |

2 (2) 取り組むべき問題とは、どういうことか。

| | | | |
|---|-----------------------------|-----|---------|
| ア | いつも新鮮な野菜を材料として美しい絵をかくということ | 応答数 | 6 (10) |
| ④ | 野菜などの自然の色どりをいきいきと表現するということ | " | 84 (70) |
| ウ | 大根やにんじんの形をたくみに表現するということ | " | 8 (14) |
| エ | 市場にあるいろいろな野菜を数多く絵にかくということ | " | 1 (5) |
| オ | 野らからとってきたままの野菜をていねいにかくということ | " | 0 (1) |
| | | 無 答 | 1 (0) |

分 ① 3・4・5 は後述

() 内数値は、同調査対象者が 6 月、学力調査実施の際の応答数である。

この、分 ① 1・2・3・4・5 は、つづく分 ②, ③, ④, ⑤, ⑥ を行なうために、6 月、学力調査実施のものをそのまま行なったもので、同じ問題を、約 3 か月の期間をおいて行なったものであるから、正答率が、1・2 とともに 10%, 14% も上昇したことは当然であろう。

分 ② 1 (1)・(2)

① の問題について、次の 1 から 3 までの問いに答えなさい。 (2・3 は後述)

1 ① の 1・2・4 の答えは、それぞれ本文のどの表現から考えて選んだか、本文のその部分を の答えのらんに書き出せ。

(1) 1 の場合

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

(2) 2 の場合

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

(3) 4 の場合

答え

(1), (2)の応答類型を表示するため、主として、(1), (2)の応答に関係の深い本文の部分を、ぬき書きする。

(3)については後述する。

① 「『夜の青果市場』なんて、おもしろい絵ができそうじゃないか。② ぼくも、一度見に行ってみよう。」私は乗り気を示した。
③
④ 「一度見にいらっしやと、おもしろいと思います。昼間はやっていません。夜だけです。」
⑤ 「お百姓さんたちが、昼間は野らで働いていて、夜しか来られないからだろうねえ。」
⑥ 「野らに直結した市場だから、よそにある大きな市場なんかより、かえって趣があると思います。」
⑦ 「ぼくが興味を持つのも、⑧ (1)そこなんだ。野菜なんかもずっと新鮮だろうねえ。」
⑧ 「新鮮ですよ。あの太根やにんじんの色が表現できたらすばらしいと思うんですが、まだとても
⑨ できません。」と言って、画学生はしょげながら頭をかいた。
⑩ 「それはきみに限らないことで、画家を志す以上、だれでもいっしょうけんめい⑪ (2)取り組むべき
⑪ 問題だよ。」と言って、私は慰めた。

○内の番号は、生徒の応答の類型をまとめるため、応答の結果にもとづき、文または語句の順番を示す。

(1)の応答類型を示すと次のとおりである。()内数値は、**1**の正答人数を示す。

| 〔表1〕 ○内の数字は文や 句の番号 | 類型 成績 | ④ | ⑤ | ⑥ | ⑦ | ⑧ | 無答・ その他 | 計 |
|--------------------------|----------|-------|-------|---------|-------|-------|------------|----------|
| | 上位群 | | | 22 (22) | 1 (1) | | 1 (1) | 24 (24) |
| | 中位群 | 1 (1) | 1 (1) | 46 (41) | 1 (1) | 3 (3) | 1 (1) | 53 (48) |
| | 下位群 | 1 | 3 (1) | 10 (10) | 2 (1) | 2 (1) | 5 (2) | 23 (15) |
| | 計 | 2 (1) | 4 (2) | 78 (73) | 4 (3) | 5 (4) | 7 (4) | 100 (87) |

〔表1〕中の上・中・下位群は、学級における国語の総合成績を四分偏差法によりきめたものである。以下各表についての上・中・下位群の分け方は同じ。

学力調査の応答調査の結果については、さきに述べたとおりであるが、分析的問題で **1** を行なった結果、77%から87%に上昇したことは、調査を行なった後の生徒間の話し合いや、時日の経過、環境のちがいなどから当然のことと思われる。〔表1〕の応答類型にあらわれているとおり、分 **1** の正答者87人中、73人は、妥当と思われる⑥の文を選んでいいる。しかし、無答その他の文を選んだものは、それぞれ少数ずつ分散したが、⑧の文を選んだものが5人も居り、しかも分 **1** を4人正答

していることは注目される。この部分の文章は、会話形式になっており、「そこなんだ」と書かれてあるので一般には、その前の文から選ぶべきであろう。けれども、この5人は、その後の文を選んでい。これは、前文の、「野らに直結した市場だから、……。」の内容を考え、⑧の「新鮮ですよ。あの根やににんじんの色が表現できたら……。」の、「新鮮ですよ。……の色が表現できたら……。」に心ひかれたためである。[1] 1の正答者中⑦の文を選んだ生徒も同じく、「野菜なんかも新鮮だろうねえ」にひかれたか、あるいは、その表現で代替えたものとも考えられる。それでも、この裏付け調査では、他の問題の裏付け調査と異なり、⑥への集中度が比較的高く、したがって分[1] 1の正答は高く信頼してもよいだろう。

(2)の応答類型を示すと〔表2〕のとおりである。()内の数値は、分[1] 2の正答人数を示す。

分[1] 2の正答率も、調[1] 1より14%上昇していることも、さきに述べた同じ理由から当然といえよう。しかし、分[1] 2の裏付け調査、分[2] 1(2)では応答が①より多く分散し、正当である⑧類型の73人に対し、⑬類型の11人、無答、その他の8人がめだっている。この裏付け調査では、「それはきみに限らないことで、画家を志す以上、だれでもいっしょうけんめい⁽²⁾取り組むべき問題だよ。」の

「それ」〔表2〕の指示し

ているものは何であるかわかれば解ける問題である。

「それ」とある以上、この場合は、

| 成績 \ 類型 | ⑧ | ⑩ | ⑬ | ⑮ | 無答・その他 | 計 |
|---------|---------|-------|--------|-------|--------|----------|
| 上位群 | 23 (21) | | | | 1 (1) | 24 (22) |
| 中位群 | 42 (39) | 2 (2) | 6 (5) | 1 (1) | 2 (1) | 53 (48) |
| 下位群 | 10 (7) | 2 (1) | 5 (3) | 1 (1) | 5 (2) | 23 (14) |
| 計 | 75 (67) | 4 (3) | 11 (8) | 2 (2) | 8 (4) | 100 (84) |

前文「『新鮮ですよ……。』といって、画学生はしょげながら頭をかいた。」をさしていることは容易にわかるはずである。この点から考えて、「それはきみに限らない……取り組むべき問題だよ。」より後の文、「青果市場は、暗い夜闇の中に、そこだけ明るく浮き出ている。」を書き出した意図がわからない。さすがに成績上位群の生徒は、ひとりを除いては、⑧を書き出しているが、中・下位群では応答が⑬にもかなり多く分散した。特に中位群の生徒が6人も⑬を書き、しかも5人が、分[1] 2で正答であったことは、追究する必要がある、面接調査でこのことをただしてみた。おおかたの生徒の発言では、「取り組むべき問題だよ。」の表現の近くにあるはずであることを最初に念頭におき、書き出したと述べ、気がおちつかず、本文を冒頭からていねいに読まなかったと述べた。生徒が⑬を書いた理由はそれ以上、生徒自身もわかっておらず、追究できなかった。

ここでたいせつなことは、「それはきみに限らないことで、画家を志す以上、だれでもいっしょうけんめい取り組むべき問題だよ。」の係り合いの関係が理解できなかったことから、⑬や、その他を書き出した理由があるのではなからうか。この分[1] 2および、分[2] 1(2)でも文章の冒頭から緊密な文相互、語句相互の関係をふまえて、ていねいに文章を読むことのたいせつなことがいわれる。

2 調査問題 1 3 について

1

3 文章中の に入れることばとして、次のどれがよいか。

| | | |
|---------------------|-----|----|
| ア お百姓さんが野らで働いていて | 応答数 | 10 |
| イ せりをする人がざわめいていると | " | 2 |
| ㊦ 画学生が自分の無力をなげいていたが | " | 46 |
| エ 市場の人がたくさん野菜をならべても | " | 17 |
| オ 私がそのみごとさに驚いたにもせよ | " | 25 |

(1) 応答にあらわれた問題点

調 1 3 は、 に続く文の主語である「かれ」がだれであるかをよく理解したうえで、
 に入れる文の主語を検討して正答を選ぶものであり、文章における主述関係の指導に関する問題である。

この問題の正答率は全国の場合も本県の場合も調 1 中、最も低かった。正答率の低いことばかりで生徒の読みの力についての考察を述べることは当を得ない。しかし、本県の正答率が全国のそれに比べ約3点も下まわっていることから検討を要しよう。この調査の結果だけからみるとアに回答した生徒が10人いるが、選択肢、アの文を に入れた場合、文章のつながりが不自然であることは明らかである。「お百姓さんが野らで働いていて」，かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。となり主述関係が成立しない。文の基本的なきまりを誤っているといえる。さらに、この文は、画学生と作者との前段の会話の内容も考えて選択肢を選ばなければならないものであり、前段の読み取りの粗雑さも誤答の原因となっている。

つぎに、エに回答したものが17人もいる。エの文を に入れると、「市場の人がたくさん野菜をならべても」，かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。となり、まず、てもとてもとの係り合いがおかしくなることに気がつく。ついで、前後の二人の会話が終わる、文章は前段とちがう場面にかわって、ここで「かれがたとい百年かかっても……。」とあるのは唐突であり、当然「かれ」とは誰か、前後の二人の会話の内容と関連づけて考えなければならないものである。この問題に限らず、文章の各語句、文、段落の緊密性をもった読みの力がいっそう望まれる。

オへの応答は、25人も多数であり、他の応答よりも多角的な分析を必要とするので、つぎの分析的問題を行なった結果も合わせ考えて述べる。

(2) 分析的問題 ① 3, および ② 2 (1), (2) と結果の考察

① 分析的問題 ① 3

分 ③ 3 本文の中の に入れることばとして, 次のどれがよいか。

| | | | |
|---------------------|-----|-----|---------|
| ア お百姓さんが野らで働いていて | 応答数 | 3 | (1 0) |
| イ せりをする人がざわめいていると | " | 0 | (2) |
| ウ 画学生が自分の無力をなげいていたが | " | 5 6 | (4 6) |
| エ 市場の人がたくさん野菜をならべても | " | 1 5 | (1 7) |
| オ 私そのみごとさに驚いたにもせよ | " | 2 4 | (2 5) |
| | 無 答 | 2 | (0) |

② 分析的問題 ② 2 (1)・(2)

分 ② 2

① の 3 で選んだ答えを本文に入れたとき, それに続く「かれがたいと百年かかっても 寄りつけそうにはない美しさだった。」の文について, 次の(1)・(2)の問いに答えよ。

(1) 「かれ」とは, 誰をさすか。

答え

(2) 「寄りつけそうにはない美しさ。」とは, どのような意味か。

答え

a 分 ① 3 の結果の考察

分 ① 3 は, 調 ① 3 と同じ問題である。やはり 9 月に行なった分 ① 3 の方が正答率 5 6 % と, 1 0 % 上昇したのは当然であろう。しかし, オへの応答は 2 5 % から 2 4 % と, ほとんど減ってはいない。

やはり, オの選択肢と本文との関係が厳密に区別できなかったものと思われる。オを本文の に入れて検討してみよう。

「私がそのみごとさに驚いたにもせよ」, かれがたいと百年かかっても寄りつけそうに
「表 3」
は文脈がとおって
いるかのように思
われる。しかし,

| 類型 成績 | ① 画 学 生 | ②画学生 と 作 者 | ③ 作 者 | ④お百姓・ 野菜売り | ⑤無 答 其 他 | 計 |
|----------|------------|---------------|----------|---------------|-------------|----------|
| 上位群 | 23 (20) | | 1 (1) | | | 24 (21) |
| 中位群 | 46 (28) | 3 (1) | | 2 (1) | 2 (0) | 53 (30) |
| 下位群 | 11 (5) | 2 (0) | 1 (0) | 4 (0) | 5 (0) | 23 (5) |
| 計 | 80 (53) | 5 (1) | 2 (1) | 6 (1) | 7 (0) | 100 (56) |

() 内数は分 ① 3 正答者数

この文章を読みたどると、「私がそのみごとさに驚いたにもせよ」に続くべきことばは、逆接の意味をもつべきで、たとえば、「彼は驚かないだろう。」とでもなることが予想される。だが、本文では、「かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」と「みごとさ」を肯定して「美しさだった。」と述べている。実際に、正答の「画学生が自分の無力をなげいていたが」を入れたとしても逆接せず、それにかかる順接する意味の文「かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」になっている。このあたりが生徒の最も理解しにくい点ではなかったと思われる。

さらに問題をつきつめていくと、「かれ」とは誰をさしているか、「百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」の文は何を言い表わしているのかが不明のままでは、応答の根拠を欠くことになり、偶然性のはいりやすいものになってしまう。このことを検討するために分② 2(1)・(2)を行なった。

b 分② 2(1)・(2)の結果と考察

〔表3〕に示したとおり分① 3の正答者56人中53人は画学生を「かれ」としたのは妥当である。しかし、逆に「画学生」と正答した80人中27人は分① 3を誤答したことになる。これまでの結果だけでは分① 3の誤答の原因を究明しにくい。この問題のように「かれ」とは誰のことが、とひらきなおって問うと大部分の生徒は「画学生」をあげるが、それが「画学生が自分の無力をなげいていたが」を□□に入れるきめてにはならなかったことが言える。あるいは、生徒にとってそこまで厳密に□□に入れる選択肢と「かれ」との関係を検討したかどうかもはっきりしない。

他の類型②「画学生と作者」に5人、③「作者」に2人、④「お百姓・野菜売り」に6人、⑤無答その他に7人、計20人応答したが、そのうち分① 3の正答者はわずか3人であったことは、「かれ」という主語が単数であることと□□の中の文の主語を検討した場合、当然考えられる結果といえよう。

つきに分② 2(2)は、分① 3で各自が応答した根拠について(1)同様に問いただしたものである。前記のとおり「かれ」についての正答率は80%で、とり出して問われたときは大部分の生徒が正答した。しかし、分① 3の正答とはさほど大きな関連を示さなかったことは表3によっても、おおよそわかる。

〔表4〕

()内数は分① 3の正答者数

| 成績 \ 類型 | ①新鮮な野菜の美しい色はとて表現できない | ②目のさめるようないろいろの野菜の色 | ③二度と見ることでできない野菜の美しさ | ④あまりきれいでそばへ寄れない | その他 | 無 答 | 計 |
|---------|----------------------|--------------------|---------------------|-----------------|--------|-------|----------|
| 上 位 群 | 17 (14) | 0 (0) | 5 (5) | 0 (0) | 1 (1) | 1 (1) | 24 (21) |
| 中 位 群 | 35 (24) | 5 (2) | 1 (0) | 4 (0) | 6 (3) | 2 (1) | 53 (30) |
| 下 位 群 | 5 (4) | 2 (0) | 3 (1) | 3 (0) | 7 (0) | 3 (0) | 23 (5) |
| 計 | 57 (42) | 7 (2) | 9 (6) | 7 (0) | 14 (4) | 6 (2) | 100 (56) |

この問いは一応生徒が分① 3に正答した場合に、「……、きゅうりの青などが、目のさめるような一盛り一盛りを入り交じらせて、それが幾列にも並んでいるのだった。画学生が自分の無力をなげいていたが、かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」の文で□□の中の正答肢がきまれば、当然「かれ」は画学生であり、「百年かかっても……美しさだった」は、とても、この野菜の美しさは絵に表現できない。となることを予想して出題したものである。こうなっ

そ、画学生が自分の無力をなげいていたが……そのとおり画学生が百年かかっても表現できない美しさだったと、文章全体の中での作者、画学生、やお屋、せりの人などの関係がはっきりしてくるのである。ところが分 ② 2(1)の応答にあるように、作者(私)、画学生、お百姓、作者と画学生などその関係がとらえられなかった生徒がいたこと、つぎに分 ② 2(2)の結果、〔表4〕にあらわれたように「かれがたとい百年かかっても寄りつけそうにはない美しさだった。」の比喩的な表現の意味を汲み取れなかった生徒が40人以上いたことによって、この問題についての生徒の読み方の粗雑さがわかる。

〔表4〕の類型にわけられた文は、生徒の自由記述の文章を要約し標本的な文をもって代表としたものである。①類型は一応妥当とみたもの、②類型の文は、野菜の美しさといろいろの色が意識の中で先行して、寄りつけそうにはないの比喩が明確に文に表現されていないもの、③類型は、②の色にのみ集中したのに対して二度と見ることをできない……。と野菜の美しさを見る作者の主観がだされており、これに「とても表現できない」と補ってやれば①類型と同様になる傾向をもっている。④類型は「百年かかっても寄りつけそうにはない」の比喩的な句をそのまま直訳して、「そばへ寄れない」、「近づけない」、「あまりきれいでそばへいけない」などを書いたものである。その他は①～④のいずれにも類型化しにくいもので「じょうずに作ってある」、「キャベツの白、にんじんの赤」、「百年かかって作った野菜」、「かれが実際に野菜を作ったことがない。」などである。

〔表4〕をさきの〔表3〕と比べながらその考察をすると、第一に〔表4〕の①類型に属する生徒57人中42人が分 ① 3に正答しているのに対して、〔表3〕の正答である「画学生」に回答した生徒80人中53人が分 ① 3に正答している両問題の正答率の差が問題になる。主語「画学生」がわかることが先決問題ではあるが、さらに続く文、「百年かかっても寄りつけそうにはない美しさ」の正しい読みがより決定的な問題になってくると思う。③に回答した生徒が上位群に5人もおり、しかも5人とも分 ① 3が正答であったことは「二度と見ることをできない野菜の美しさ」に加えて「表現し難い」と補って考えればうなずける。②の生徒は、さきにも述べたように多分にいろいろな色に心をひかれた生徒で、表現ををはなれ主観にとらわれ、客観的な画学生に関する問題として読み取れなかったのではなかろうか。④の生徒は寄りつけそうにないの比喩をそのまま幼稚に字句どおりとったものであり、成績上位群の生徒にはなく、中、下位群の生徒ばかりで、分 ① 3も全員7人が誤答している。

この問題についての検討を限られた条件、100人の抽出、自由記述の類型化、成績群の分け方などによって述べてきたので客観性の欠けている点のあることは否定できない。しかし、右の表に示したとおり分 ② 2

(1)・(2)それぞれの問題で「かれ」の主語「画学生」を80人正答し、ついで「百年かかっても寄りつけそうにはない美しさ」の意味の問いに対しても①類型に答えた57人の生徒のうち分 ① 3のウ「画学生が自分の無力をなげいていたが」も正答した生徒は、100人中38人である。

| 分 ② 2, 分 ① 3の両方の正答数 | | |
|---------------------|-----------|-------|
| 上位群 | 24人中 14人 | 58.3% |
| 中位群 | 53人中 21人 | 40% |
| 下位群 | 23人中 3人 | 13% |
| 計 | 100人中 38人 | 38% |

分 ① 3の正答者は56人であるがそのうち18人の生徒は、確実な根拠をもって正答したとは必ずしもいえない。ただし中には分 ② 2(2)の②が③もその他の類型に属する生徒の中には「寄りつけそうにはない美しさ」をわかっていながら自由記述のため意図に反した結論になった生徒もいたことを考え合わせなければならない。

この問題を分析・検討して第一に感ずることは、後日の面接調査での生徒の発言にあったように、選

択肢の適当なものを選んでおき、つぎにその問題の指示文に関係する部分をとびとびに読んだ者が多かったということである。「かれがたとい百年……………美しさだった。」の文を検討し、☐ に入れるべき選択肢をさらに照応させてどの程度厳密な読みをしたか疑問である。☐ に各選択肢を入れた場合、文のきまり、語と語の関係、ここまでの文章の流れ、特に①〔の部分との緊密な関係などを考えると当然ウが選ばれるべきものであろう。このような大きな設問によらなくても、もっと基本的な語、あるいは語と語との関係をていねいに読み取る力を養っておく必要があろう。「(百年かかっても)(寄りつけそうにはない)(美しさ)」この三つのことばの関係だけでも読み取れるような力を養っておきたいということである。

3 調査問題 ① 5 について

| | | |
|---|-----|----|
| ① | | |
| 5 この文章の中にある描写として、あてはまらないものが、次の中に一つある。それは、どれか。 | | |
| ア 昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。 | 応答数 | 47 |
| イ 市場の外の様子や老婆の動作を描いている。 | 〃 | 14 |
| ウ 市場の内部の光景を目に浮ぶように描いている。 | 〃 | 13 |
| エ さまざまな色彩や人々の動きを描いている。 | 〃 | 12 |
| オ 夜の市場の内と外との光景を描いている。 | 〃 | 12 |
| | 無 答 | 2 |

(1) 応答にあらわれた問題点

調 ① 5 は文章中の描写に関するものであり、指示文が否定的なことばで述べられているもので、全国の正答率は 51.4 % でやや低い結果になっている。本県の正答率は 47.1 % で全国の正答率より 4.3 % 低く、問題 ① の中で最も差が大きく文章に書いてある事からの理解とともに文章表現に関する指導にいつそう努めなければならないことを示している。

問題のねらいは、「文章の中に書かれている情景を読み味わう力」をみるとなっている。この問題では、これまで述べてきた調 ① 1・2・3 の分析的研究にみられるように、生徒の読みの粗雑さや、語句、文、文章の关系的な読みの不足などから考え、問題の指示文が否定的に「あてはまらないもの」とあるために誤答した生徒が多かっただろうことが考えられる。つぎに選択肢の文が、いずれも、何かしらのかたちで、本文中にある語句や意味内容をもっていることから、部分的、表面的な見方、考え方をする生徒が多いため誤答が多かったことも予想される。

以上の生徒の読みに関する実態を見きわめ、どの程度、本文とそれぞれの事から、内容を関係づけ、ていねいに読んでいるか、つまずきの原因は何かを検討するためつぎの分析的問題を行なった。

(2) 分析的問題 ① 5 , および ② 3 と結果の考察

① 分析的問題 ① 5

分① 5

本文の中にある描写として、あてはまらないものが、次の中に一つある。それは、どれか。

| | | | |
|---------------------------|-----|----|------|
| ㉞ 昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。 | 応答数 | 53 | (47) |
| イ 市場の外の様子や老婆の動作を描いている。 | " | 6 | (14) |
| ウ 市場の内部の光景を目に浮かぶように描いている。 | " | 14 | (13) |
| エ さまざまな色彩や人々の動きを描いている。 | " | 8 | (12) |
| オ 夜の市場の内と外との光景を描いている。 | * " | 17 | (12) |
| | 無 答 | 2 | (2) |

② 分析的問題 ② 3

分② 3

本文は□□のしるしによって五つの部分にくぎられている。

次の(1)から(4)までのそれぞれについて、本文の中でよく描かれている部分はどこか。本文にある□の上の番号を下の□□に書き入れよ。あてはまる部分がないときは、書き入れないでよい。

| | | | |
|---------------------------------|---|-----|----|
| (1) 主として、市場の外の光景を描いている部分 | ② | 正答数 | 78 |
| (2) 主として、市場の昼と夜との様子を対照的に描いている部分 | □ | " | 40 |
| (3) 主として、市場のせりの人々の動きを描いている部分 | ④ | " | 77 |
| (4) 主として、市場の野菜の美しさ、新鮮さを描いている部分 | ③ | " | 86 |

(02)

③ 分① 5 の結果と考察

分① 5の結果、ア「昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。」が53%で、同じ問題、調① 5より6%上昇している。他の誤答肢イ・エの減少したことはうなずけるが、ウの「市場の内部の光景を目に浮かぶように描いている。」に誤答した生徒は、調① 5のときよりふえ、14人であること、オの「夜の市場の内と外との光景を描いている。」への誤答がさらに5人もふえていることは、考えさせられる。ウ・オに回答した生徒の、① 5と分① 5への回答の関連をみようとしたが、2回ともウ・エに回答したものや、調① 5では、ウ・オに回答しながら、分① 5のときは、ア・イ・ウ・エ・オなどに分散して、生徒の一貫した傾向はみられなかった。そして、選択肢は変わっても正答アに変わった生徒は、わずか一部の生徒であった。このことは、ウ・オに回答した生徒は、本文を読むたびに選択肢の抽象的な文の真意を理解できず、意味のとりちがひ、拡大、縮小、断片的把握などにより、定見なく回答したものと思われる。

ウの文「目に浮かぶように……。 」をどう読み取ったかも応答に大きな影響を及ぼしたであろう。本文の ②〔 ③〕の部分に主として市場の光景が具体的に「目に浮かぶように」描かれていると思われるが、読む生徒の中には、そう具体的に受けとれなかった者がある。これと正反対にあまりに「目に浮かぶように」に気をとられ、指示文の「あてはまらないもの」を逆にとりちがえた生徒の多かったことも考えられる。

オの文「夜の市場の内と外との光景を描いている。」に回答した生徒は、外の光景を描いた ②〔 の部分がみじかく、しかも外ということばが本文に使用されていないこと、また、本文の内容にはたいして関係がないとみられること、内部の様子が主として本文の大部を占め、内容も全文に関係深いことなどによって、「外」という語に特に注意が向けられ、「あてはまらない」と見なした生徒も多かったと思われる。

調査問題 ① 5および分析的問題 ① 5の結果から以上の考察をしたが、さらにその裏付けとして、生徒は本文をどの程度ていねいに読み、書いてある事がらをどの程度まとめられるか分 ② 3によって追究し、それに付帯して面接調査も行った。

分 ② 3(1)の集計〔表 5〕をみると正答率は 78%で、さきに分 ① 5の選択肢オについて検討した内と外との対照については外を見落とした者が多いように思われたが、とりたてて「主として、市場の外の光景を描いている部分」について問うとやさしく、 ②〔 の部分を指摘できる。しかし、 ②〔 の部分の正答者 78人中 33人の生徒は分 ① 5を誤答し、オに回答したものが 17人もいる。市場の内部について書いてあることは大部分の生徒は理解していたであろうが、外についての表現部分は短かく、内容的にも生徒の印象に残らなかったものとも考えられる。あるいは、 ③〔 の部分の表現はよくよく吟味しないと市場の内も土間のためどこから内部になるか確別しにくかったことにもオへの誤答の原因がある。いわゆる情景を読み味わう力の不足からきているといえよう。

〔表 5〕

| (1) 主として、市場の外の光景を描いている部分 正答 ② | | | | | | | |
|-------------------------------|---------|-----------|---------|---------|---------|---------|------------|
| 部分の番号 成績 | ① 〔 | ② 〔 | ③ 〔 | ④ 〔 | ⑤ 〔 | 無 答 | 計 |
| 上 位 群 | 1 (0) | 23 (15) | | | | | 24 (15) |
| 中 位 群 | 5 (2) | 44 (26) | 1 (0) | 1 (1) | 1 (0) | 1 (1) | 52 (30) |
| 下 位 群 | 3 (2) | 11 (4) | | | 3 (0) | 6 (2) | 23 (8) |
| 計 | 9 (4) | 78 (45) | 1 (0) | 1 (1) | 4 (0) | 7 (3) | 100 (53) |

つぎに〔表 6〕は、分 ① 5の正答肢、「昼と夜との市場の様子を対照的に描いている。」の裏付けとして出題した同問題分 ① 3(2)の集計である。この出題では、「あてはまる部分がないときは書き入れないでよい。」とただし書きをしたが、一応、答えのらんを(1)～(4)にそれぞれ設けてあったことから、生徒の中にはどうかして書き入れたかったと述懐したものもあり、あるいは入れたい気持ちがたらき書き入れた生徒が予想外に多かった。このことから、分 ① 5の応答にあたり「あてはまらないもの」を取りちがえ誤答した者が多かっただろうことが推測される。このことは本文はもちろん、問題指示文、選択肢の文をどの程度生徒が関係づけ、ていねいに読んだかの問題になろう。

応答結果は、正答の該当なしに 40人、 ①〔 の部分に 41人と 2分され集中した。この問題で注目

されることは成績の上位群から下位群へと下っても正答率は他の(1)・(3)・(4)ほどに差がないことである。このことは問題が生徒の能力に対して程度が高過ぎたことでもあり、また、それは、単なる正しい読み

〔表6〕

()内数値は分①5の正答者数

| (2) 主として、市場の昼と夜との様子を対照的に描いている部分 正答 誤答部分なし | | | | | | | | |
|---|----------|---------|---------|--------|---------|----------|---------|----------|
| 部分の番号 成績 | ① □ | ② □ | ③ □ | ④ □ | ⑤ □ | 該当する部分なし | 無 答 | 計 |
| 上 位 群 | 10 (3) | 1 (0) | 1 (1) | | | 12 (11) | | 24 (15) |
| 中 位 群 | 24 (8) | 3 (1) | 1 (1) | | 1 (1) | 23 (18) | 1 (1) | 53 (30) |
| 下 位 群 | 7 (2) | 3 (2) | 3 (0) | | | 5 (3) | 5 (1) | 23 (8) |
| 計 | 41 (13) | 7 (3) | 5 (2) | | 1 (1) | 40 (32) | 6 (2) | 100 (53) |

のみならず、出題の指示文、選択肢、本文との一連の関係的な慎重な読み取りを必要とする複雑さからもきているとも考えられる。同様のことはそのまま分①5にも言われる。右の表の上・中・下位群の正答率の差がほぼ同率であることは偶然性も多分にあるが一傍証になる。また「対照的」の語の理解の不足から誤答した生徒のいたことも考えられる。

| 分②3(2)の正答率 | | 分①5の正答率 | |
|------------|-----------|-----------|--|
| 上位群 | 50% | 62% | |
| 中位群 | 43% 差 7% | 56% 差 6% | |
| 下位群 | 21% " 22% | 34% " 22% | |

しかし、分①5の正答率は、①□の部分への応答率にはあまり関係がない。上位群の①□の部分に回答した生徒との面接の結果では、答えのらんがあったのでどうにか答えたい気持ちになり、しかも①□の部分に「……昼間はやっていません。夜だけです。」と出ており、これに暗示を得て答えたと言った生徒もあり、中、下位群にもこのような考えがはたらき、①□の部分に回答した生徒の多かったことが推測される。「該当する部分なし」に回答した生徒、40人中32人が分①5に正答し、①□の部分に回答した生徒41人中13人が正答であった。このような傾向は一応当然の結果と思われるが、生徒の文章の読み方、考え方の粗雑さが指摘できる。

〔表7〕は分②3(3)の結果である。正答肢④□の部分への回答は77で、(1)・(4)とともに一応正答率は高いと言える。しかし、問題の指示文は「主として、市場のせりの人々の動きを描いている部分」とあり、容易に④□に回答できるものと思われるが、23人の生徒が誤答したのは前述したとおり、文章全体をていねいに読んでいないことがその原因として第一にあげられる。つぎに⑤□の部分に回答した生徒はこの部分に「せりのかたまりの近づく先で」とあることばにとらわれ、指示文の「主として……」の読み取りが浅かったからであろう。この問題は、上位群に誤答者がひとりもなく、下位群にいくほど誤答者が多くなっている。後にも述べるが、この問題に出てくる「せり」の意味の理解のできない生徒がだいぶあり応答にかなりの影響のあったであろうことも付け加えておく。

〔表 7〕

| (3) 主として、市場のせりの人々の動きを描いている部分 正答 ④ | | | | | | | |
|-----------------------------------|--------|--------|--------|---------|---------|--------|----------|
| 部分の番号 成績 | ① 〔 | ② 〔 | ③ 〔 | ④ 〔 | ⑤ 〔 | 無 答 | 計 |
| 上 位 群 | | | | 24 (15) | | | 24 (15) |
| 中 位 群 | | 2 (1) | | 47 (26) | 4 (3) | 2 (1) | 53 (30) |
| 下 位 群 | | 2 (0) | 3 (0) | 6 (3) | 6 (3) | 6 (2) | 23 (8) |
| 計 | | 4 (1) | 3 (0) | 77 (44) | 10 (6) | 6 (2) | 100 (53) |

() 内数値は分 ① 5 の正答者数

〔表 8〕

| (4) 主として、市場の野菜の美しさ、新鮮さを描いている部分 正答 ③ | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|----------|
| 部分の番号 成績 | ① 〔 | ② 〔 | ③ 〔 | ④ 〔 | ⑤ 〔 | 無 答 | 計 |
| 上 位 群 | 2 (1) | | 22 (14) | | | | 24 (15) |
| 中 位 群 | 1 (1) | | 51 (29) | | 1 (0) | | 53 (30) |
| 下 位 群 | 4 (0) | | 13 (6) | 1 (0) | | 5 (2) | 23 (8) |
| 計 | 7 (2) | | 86 (49) | 1 (0) | 1 (0) | 5 (2) | 100 (53) |

〔表 8〕は分 ② 3 (4) の結果である。後の生徒の感想文にも多く出てくるが、野菜の新鮮さ、美しさについては、大部分の生徒が関心を示しており、この部分については印象深く読んだものとみられ、

③〔の部分への正答が 86 人とたいそうよかった。ただし、①〔の部分の作者と画学生との会話の内容からか、①〔の部分に回答した生徒が 7 人いた。

⑤ 調査問題 ① 5 の考察のまとめ

以上の調 ① 5 の問題についての分析的問題 ① 5、② 3 (1)・(2)・(3)・(4)の結果と、付帯調査を行った結果の考察をまとめると、つぎの二つのことがいえる。

a 出題のねらい、「文章の中に書かれている情景を読み味わう力」の不足と、本文に具体的に書かれていることがらが選択肢にはその制約上、抽象化されて述べられていることからくる誤答が多かったことである。文章表現をていねいに読み味わう力の不足をこれまで数回述べてきたが、この問題ではさらに、読んだことがらを抽象化する力の必要性を感じる。ふだんの文章の読みにおける具体化と抽象化の相互作用を生かした指導が要望される。特に大問 ① の中でこの問題の県の平均正答率が全国平均に対して最も下回ったことから強調したい。

b 結論的には基礎的な力の不足ということになるが、本文、問題文、選択肢の文を正しく関係的に読む力がほしいということである。語と語、文と文、文章と文章の緊密な関係をていねいに読み取る力を育てたい。一例をあげると、「あてはまらない」などの否定的な指示文をかるく読みすごさないこと、「夜」、「昼」などの語の表面的なつながりからのみ両者の関係を読んでいくということにならぬよう指導上留意していかなければならない。

4 調査問題 ① 4 について

この問題は、はじめに述べたように「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう力」をみるねらいで出題されたものであり、われわれがこの分析的研究で焦点をあてた問題である。したがって、生徒のこの種の問題についての考え方、つまづきの原因、さらに出題のあり方などを究明し、ひいては、文学的文章の心情を読み味わう指導、評価のあり方などにふれるため、調査問題 ① 全問に限らず、2年生の文学的文章に関する問題にもふれ、総合的、対照的な方法を用い検討していく。

①

4 次のa, b, c, d, eの中には、(3)手ぬぐいかぶりをした老婆の気持ちを表わしたものが二つある。その二つを組み合わせたととして、次のどれがよいか。

| | | | | | | | | |
|---|-----|---------------------------|-----|---|-----|----|----|---|
| } | a | 自分が持ってきた野菜が高く売れないのでこまる。 | 応答率 | ア | 3 | | | |
| | b | 野菜の売り値をなるべく安くして、お客を喜ばせたい。 | " | イ | 5 | | | |
| | c | 売れ残った野菜と見えないように、よく洗っておこう。 | " | ウ | 6 | | | |
| | d | 野菜をきれいにふいて、できるだけよい値で売ろう。 | " | エ | 78 | | | |
| | e | 手放すときまで、扱いに心をこめてたいせつにしたい。 | " | オ | 8 | | | |
| ア | aとb | イ | bとc | ウ | cとd | " | アウ | 1 |
| エ | dとe | オ | eとa | | | 無答 | | 1 |

(1) 応答調査結果の考察

調 ① 4のねらいをさらに問題に即して具体的に述べると、本文 ⑤ [の部分に書かれている老婆の心情を読み味わう力を見る問題である。全国の平均正答率は82.1%で高い結果になっている。この正答率は、3年の全問題35問中、全国の場合は2番目に、本県の場合は3番目に高いものである。

本県の正答率は80.2%で全国正答率よりはやや低いが生徒の全調査問題中では全国と同様高く、本抽出席でも78%の正答率で他の問題に比べ高くなっている。後の考察でも述べるが100人中約80人の正答率では、誤答の20人についての考え方の分析はしにくい。付帯調査のとき担任教師との話し合いにも出たように、誤答した生徒は、ほとんどが国語科のどの領域・分野の力をみても、また他教科をみても力が劣っているために、知能、あるいは能力の劣ることにその原因が帰結されやすい。

以上の正答率の上からの問題点をあげたが、最初から ① 4の問題そのものについても二、三の疑問を感じたので次の観点から分析的研究を行なおうとした。

- 生徒の文章の読み方考え方の実態をみる
- 文字・語句・文・文章の理解力と ① 4の心情を読み味わう力との関係
- 書いてあることがらの理解力と ① 4の心情を読み味わう力との関係
- 学校での国語科一般の成績と ① 4の心情を読み味わう力との関係
- 生徒の環境・性格と ① 4の心情を読み味わう力との関係
- 文章を概括し抽象する力と ① 4の心情を読み味わう力との関係

(2) 分析的問題 ① 4, ② 1 (3), および ④ と結果の考察

① 分析的問題 ① 4, ② 1 (3) と結果の考察

分 ① 4

次の a, b, c, d, e の中には, ⁽³⁾手ぬぐいかぶりをした老婆の気持ちを表わしたものが二つある。その二つを組み合わせたものとして, 次のどれがよいか。

| | | | | | | | | |
|---|-------|---------------------------|-------|---|-----------|-----|-----|---------|
| { | a | 自分が持ってきた野菜が高く売れないのでこまる。 | 応答率 | ア | 1 (3) | | | |
| | b | 野菜の売り値をなるべく安くして、お客を喜ばせたい。 | " | イ | 3 (3) | | | |
| | c | 売れ残った野菜と見えないように、よく洗っておこう。 | " | ウ | 2 (6) | | | |
| | d | 野菜をきれいにふいて、できるだけよい値で売ろう。 | " | エ | 81 (78) | | | |
| | e | 手放すときまで、扱いに心をこめてたいせつにしたい。 | " | オ | 5 (8) | | | |
| ア | a と b | イ | b と c | ウ | c と d | " | アウ | 1 (1) |
| エ | d と e | オ | e と a | | | " | アオ | 1 |
| | | | | | | " | e | 3 |
| | | | | | | " | c e | 1 |
| | | | | | | 無 答 | | 2 (1) |

分 ② 1 (3)

① の問題について, 次の 1 から 3 までの問いに答えなさい。

1 ① の 1, 2, 4 の答えは, それぞれ本文のどの表現から考えて選んだか, 本文のその部分を の答えのらんには書き出せ。

(3) ① 4 の場合 ① 1, ① 2 の場合は前に述べたので省略

| | |
|----|----------------------|
| 答え | <input type="text"/> |
|----|----------------------|

分 ② 1 (3) の問題は自由記述形式をとったので, 本文をあげ応答結果を類型別にまとめた。

本文 (前文略)

④ せりは, この野菜の列の間で, 一盛り一盛りについて行なわれた。⑤ 仲介人とでもいうべき男を中心に, ^{はち}ねじ鉢巻きや裸になったやお屋たちがひとかたまりになって, 口々に値をせりながら徐々に移動した。

⑥ ふと気づくと, ひとりの⁽³⁾手ぬぐいかぶりをした老婆が, せりのかたまりの近づく先で, ふとつたねぎの白根を一本一本布ぎれてふいていた。⁽⁴⁾きれいに^は濯がれて, みがききったように見えるねぎ

を、そのうえにまたぬぐっているのだった。^⑤自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。^⑥しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。^⑧自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取れた。^⑨牛や馬の仔^こを市へ売りに行つて、別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであった。

文章中の②，⑤，……⑨は、引用文章中における一文一文の順番を示す

〔表 9〕 分析的問題② 1，3 の応答類型

| 類型 | 書 き 出 さ れ た 文 | 応答人数 | 分① 4 正答人数 |
|----|---|------|-----------|
| A | <p>⑤ 自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。</p> <p>⑥ しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。</p> <p>⑧ 自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取れた。</p> | 47人 | 45人 |
| B | <p>⑥ ふと気づくと、ひとりの手ぬぐいかぶりをした老婆が、せりのかたまりの近づく先で、ふとったねぎの白根を一本一本布ぎれでふいていた。</p> <p>④ きれいに濯がれて、みがききつたように見えるねぎを、そのうえにまたぬぐっているのだった。</p> | 17人 | 15人 |
| C | <p>② せりは、この野菜の列の間で、一盛り一盛りについて行なわれた。</p> <p>⑦ 仲介人とでもいうべき男を中に、ねじ鉢巻^{ねじはちまき}きや裸になったやお屋たちがひとかたまりになって、口々に値をせりながら徐々に移動した。</p> | 14人 | 9人 |
| D | <p>⑨ 牛や馬の仔^こを市へ売りに行つて、別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであった。</p> | 5人 | 4人 |
| E | その他の文および無答 | 17人 | 8人 |
| 計 | | 100人 | 81人 |

分析的問題② 1 (3) の応答類型 A (⑤，⑥，⑧) の文を書き出した生徒) は、分 ① 4 の正答肢と内容

が一致しており、裏付けとして妥当であり、A 類型の生徒は、分 ① 4 の応答でも 47 人中全員に近い 45 人が正答している。

しかし、分 ① 4 の正答者 81 人中、31 人がその裏付けとして A 類型以外の文を書き出したことについては検討を要する。A 類型以外の生徒 31 人中、13 人は B 類型で、㉔、㉕の文を書き出している。

B 類型の文には、老婆の高値で売ろうとしている事がらや、愛着をこめている事がらについては書かれてはいない。しかし、作者が説明した老婆の心情のもととなる具体的な行為については書かれており、この具体的な行為を読み味わうことを考慮すると B 類型への応答も妥当と考えられる。あるいは、この具体的な行為にこそ真に老婆の心情を読み味わうときの読者の想像、表象化のはたらきが生ずるのではなからうか。B への応答数 17 人の大部分 15 人が分 ① 4 を正答したことでわかる。

C 類型の㉔、㉕を書き出した 14 人の生徒中、分 ① 4 の正答者が 9 人いる。C 類型の文は、老婆について書かれている部分につながる前文とはいえるが、B 類型とは異なり、老婆の心情について書いた事がらとは関係がたいそううすい。ただぬき書きを省略して続く㉔、㉕……などを書かなかったのであれば別であるが。

D 類型の㉕の文を選んだ生徒は、「牛や馬の仔を……別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであった。」の文中の「同じ心理」に注目し、老婆のねぎに対する愛着の気持ちを牛や馬を売る人の気持ちに託したものと考えられる。この考え方は B 類型の生徒の考え方に似ており、分 ① 4 も 5 人中、4 人正答で一応妥当と思われる。

E 類型の応答は、無答もしくは、老婆の心情の書かれている部分にはほとんど関係がないといえる。例をあげると、老婆の心情の書かれている部分にある「みがききったように見えるねぎ」と、③〔の部分にある「ねぎの白、トマトの赤、きゅうりの青……。」の野菜の名前が両者に述べてあることから応答したと考えられる生徒が数人いたことなどである。

調査問題の応答の際、本文の文章表現をていねいに読むことよりも、応答を急いだため、選択肢の文にとらわれ過ぎ、おおよその見当で応答した生徒が多いこともわかった。同様に分析的問題 ① 4、② 1 (3) の応答のときも本文と ① 4 の選択肢との関係を考えてていねいな読みをしていない生徒も相当数いた。このことは、後の面接調査の結果でも明らかになった。

以上の ① 4 の検討をとおして言えることは、調・分 ① 4 の正答、誤答にかかわらず、生徒の文章の読み方にていねいさの欠けていることが指摘できる。このことは、ただ単に文面をたどり、ていねいに読むという表面的なことではなく、語句、文、文章相互の緊密な関係を考えて読み取らなければならないということである。

つぎに、この問題の全国平均正答率は 82.1% で「やさしかった」と文部省の中間報告書にあるが、分析的問題の検討の結果、正答者 81 人中、約 30 人近くのものが、応答の裏付けとなる考え方に確実さが欠けている。正答率をみるばかりでなく、応答の裏付けとなる生徒の文章の読み方、考え方も検討することがたいせつであろう。このことから、○×式の問題についての欠陥が指摘できる。

以上述べた結果の考察を考え合わせ、文学的文章の読み、心情の把握などの指導、評価にあたりたいと思う。

② 分析的問題 ④ と結果の考察

分 ① 4 の老婆の心情を読み味わう力をみる問題は、ねらいにも示されているように、「文章の中に

書かれている人間の心情を読み味わう力」をみるもので、本文の場合は [5] [の老婆の気持ちについて 作者が描いた事がらを正しく読み取ればできる問題である。このことから分 [2] 1 (3) についてさらに、 [5] [の部分の文章の語句の理解力と老婆の気持ちの読み取りとの関係を見るため次の、分析的問題を行なった。

○は正答肢、右の数値は調査対象者 100 人の応答人数を示す

分 [4] 1 (1)・(2)・(3)・(4)・(5)

本文の [5] [の部分を読んで、1 から 5 までの問いに答えなさい。答えはア、イ、ウ、エの中から最も適当なものを、それぞれ一つずつ選んで、その記号を○で囲みなさい。

1 次の(1)から(5)までのことばの意味としてどれがよいか。

| | | | | | |
|------------|---|---|---------------------|-----|----|
| (1) みがききった | { | ア | みがくことをやめた | 応答数 | 1 |
| | | イ | みがいてもきりがなかった | " | 4 |
| | | ウ | よくみがいてあった | " | 9 |
| | | Ⓔ | もうみがなくてもよいほどみがいてあった | " | 86 |
| (2) 引き立たせて | { | ア | 引いてまっすぐにして | 応答数 | 3 |
| | | Ⓔ | りっぱに見えるようにして | " | 86 |
| | | ウ | 立てかけるようにして | " | 1 |
| | | エ | 目に見えるようにして | " | 10 |
| (3) 丹精している | { | ア | 心をおちつけてみがいている | 応答数 | 10 |
| | | Ⓔ | 心をこめてみがいている | " | 85 |
| | | ウ | 心をしずめてみがいている | " | 4 |
| | | エ | 心をいらだたせてみがいている | " | 1 |
| (4) 愛 着 | { | Ⓔ | かわいいような惜しいような気持ち | 応答数 | 36 |
| | | イ | かわいそうで同情する気持ち | " | 15 |
| | | Ⓔ | かわいくて心ひかれる気持ち | " | 36 |
| | | エ | かなしいようなさびしいような気持ち | " | 13 |
| (5) 同じ心理 | { | ア | 同じ理論 | 応答数 | 3 |
| | | Ⓔ | 同じ気持ち | " | 84 |
| | | ウ | 同じ心がけ | " | 11 |
| | | エ | 同じ苦しみ | " | 2 |

2 「少しでも高値でせり落とさせよう。」の意味として、次のどれがよいか。

| | | | |
|---|--------------------------------|-----|----|
| Ⓔ | 値だんを競わせて少しでも高い値だんに買い手をきめよう。 | 応答数 | 51 |
| イ | 高い値だんのものを少しでも安くするようにして客を喜ばせよう。 | " | 12 |

| | | | |
|---|---|-----|-----|
| ウ | 高い値だんのもを少しでも安くして買って買う人をきめさせよう。 | 応答数 | 4 |
| エ | 少しでも高い値だんになるように競争させよう。 | " | 3 1 |
| | | 無 答 | 2 |
| 3 | 「 <u>そうとばかりは言えなさそうだった。</u> 」の <u>そう</u> は何をさしているか。 | | |
| ア | ねじ鉢巻きの人々がいっしょうけんめいに、野菜の値だんをきめていたこと。 | 応答数 | 1 |
| イ | 手放すときになって、最後の愛着をこめていたこと。 | " | 1 5 |
| ウ | せりのかたまりが近づいてくる先で老婆がねぎをぬぐっていたこと。 | " | 4 |
| ㊦ | 自分のねぎを引き立たせ、少しでも高値で売ろうと丹精していたこと。 | " | 7 9 |
| | | 無 答 | 1 |
| 4 | 「別れに臨んで、その毛並みをきれいに <u>整えてやる</u> のと同じ心理……。」と書いてあるが、傍線の部分は次のどれと同じ心理か。 | | |
| ア | 自分のねぎを引き立たせて少しでも高値でせり落とさせようとしていること。 | 応答数 | 5 |
| イ | 牛や馬の仔を市に売り出そうとして愛情をこめて育てていること。 | " | 1 9 |
| ㊦ | 自分の手で育てたねぎを手放すとき、ていねいにぬぐって、丹精していること。 | " | 7 4 |
| エ | 野菜を青果市場へ売り出すために、野らから運んでいること。 | " | 1 |
| | | 無 答 | 1 |
| 5 | 「最後の愛着をこめているものとも <u>受け取られた。</u> 」の傍線の意味として次のどれがよいか。 | | |
| ア | …………… いるように感じられた。 | 応答数 | 8 |
| イ | …………… いるようにも考えさせられた。 | " | 1 5 |
| ㊦ | …………… いるようにも感じられた。 | " | 7 3 |
| エ | …………… いるように考えられた。 | " | 3 |
| | | 無 答 | 1 |

老婆の心情を読み味わう力をみる問題分 ① 4 に対する生徒の文章の読み方、考え方を追究するため
分 ① 4 の結果と照合しながら応答の結果をまとめる。

分④ 1の応答結果と分① 4の結果との関係 Aは分① 4の正答者、Bは誤答者

〔表10〕 応答人数
の□に囲ま
れた選択肢が
正答肢

a 分④ 1
の結果と考
察

分④ 1は、本文
⑤〔の部分の語句
の理解力と、老婆の
心情を読み取る力と
の関係をみるため出
題したものである。
したがって出題した
語句は⑤〔の内容
理解にできるだけ関
係が深いだろうと思
われるものを選んだ。
ただし、分④ 2～
5で文の理解力をみ

| 分④ 1の 各 問 題 | 正A 誤B | 選 択 肢 ・ 応 答 人 数 | | | | | | A・Bの正答率 小数点以下4捨5入 |
|----------------|----------|-----------------|----|----|----|----|------|----------------------|
| | | ア | イ | ウ | エ | 無答 | 計 | |
| (1) みがき きった | A | 1 | 2 | 6 | 72 | | 81 | 50% 90% |
| | B | 0 | 2 | 3 | 14 | | 19 | 71% |
| | 計 | 1 | 4 | 9 | 86 | | 100人 | ()内%はA-B (19%) |
| (2) 引き立 たせて | A | 3 | 71 | 1 | 6 | | 81 | 89% |
| | B | 0 | 15 | | 4 | | 19 | 76% |
| | 計 | 3 | 86 | 1 | 10 | | 100人 | (13%) |
| (3) 丹精し ている | A | 3 | 75 | 3 | | | 81 | 95% |
| | B | 7 | 10 | 1 | 1 | | 19 | 52% |
| | 計 | 10 | 85 | 4 | 1 | | 100人 | (43%) |
| (4) 愛 着 | A | 29 | 11 | 30 | 11 | | 81 | 73% |
| | B | 7 | 4 | 6 | 2 | | 19 | 67% |
| | 計 | 36 | 15 | 36 | 13 | | 100人 | (6%) |
| (5) 同じ心 理 | A | 2 | 76 | 3 | | | 81 | 95% |
| | B | 1 | 8 | 8 | 2 | | 19 | 43% |
| | 計 | 3 | 84 | 11 | 2 | | 100人 | (52%) |

るので、ここでは語句を短くして出題した。

出題のねらいや実施にあたっての諸条件から次のことをふまえながら考察したことを述べる。

○ 問題は選択法によったもので選択肢相互の関係を考慮しなければならないこと。したがって実施の結果厳密に決定し得なかった(4)の場合は、ア、ウともに正解としたこと。

○ 語句・文に問わず出題にあたっては、本文の⑤〔の部分を読んで……。〕のように本文の中でその語句なり文なりの意味を考えるよう指示したこと。

○ 選択肢の数は、繁雑さと、作成のむずかしさを考えて4つにした。したがって偶然性はある程度免れないこと。〔表10〕でわかるように、分④ 1 (1)～(5)までの正答率は72%から86%で、全般に出題された語句については上記の条件ではよく理解していたとみてよい。(4)は他の問題に比べ分① 4の正答者(以下A群という)の中でもだいたい応答がちらばりに10人、エに11人応答している。それに比べ、分① 4の誤答者(以下B群という)は他の問題ほど応答が分散しなかった。このことは、もちろん選択肢の語句相互と「愛着」の語との関係からどの選択肢もかなり「愛着」の意味内容をふまえていた結果といえよう。A群の生徒は〔表11〕のとおり上位群ほど多くなっており、⑤〔の部分全体と関係的にみ、よく検討し、想像をまじえたことから逆に分散したものとも考えられる。エについても同様のことが言えよう。このことは分⑥の感想文にも多くの生徒が「かなしそう」「かわいそう」などと述べていたことでもわかる。

〔表 11〕 分 1 4 の 応 答 結 果 正 答 エ

| 成績 \ 応答 | ア | イ | ウ | エ | オ | アウ | アオ | e | ce | 無答 | 計 | 正答率 |
|---------|---|---|---|----|---|----|----|---|----|----|-----|-------|
| 上 位 群 | | | | 23 | 1 | | | | | | 24 | 95.5% |
| 中 位 群 | | 1 | 1 | 48 | | | | 3 | | | 53 | 90.5% |
| 下 位 群 | 1 | 2 | 1 | 10 | 4 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 23 | 43.4% |
| 計 | 1 | 3 | 2 | 81 | 5 | 1 | 1 | 3 | 1 | 2 | 100 | |

(1)から(5)までの応答結果をみて特に注目されることは、A群とB群との正答率にたいそう開きのある語句とあまり差のない語句とがあることである。もともとA群にはB群よりも国語成績の上位群の生徒が多く、語句の正答率もA群が高いだろうことは当然予想される。しかし、表10のグラフに示したように、A群、B群の正答率の差は、(4)のわずか6%の差から(5)の52%の大差のあるものまでである。調

査対象生徒が100人で、しかも、選択肢の文の不備の点のあることを考え偶然性がまじり易く速断はできないが、差の大きかった(3)の「丹精している」と(5)の「同じ心理」とは、A・Bの差が大きく 〔5〕〔の部分の正確な読み取りに影響の大きい語句として考慮する必要がある。その他の(1)、(2)、(4)は、分14の正答、誤答にはそんなに影響が大きかったとはいえないようである。〔5〕〔の部分における「丹精」、「同じ心理」のもっている意義について

| A 群・B 群の正答率の差 | |
|---------------|-----|
| (1) みがききった | 19% |
| (2) 引き立たせて | 13% |
| (3) 丹精している | 43% |
| (4) 愛 着 | 6% |
| (5) 同じ心理 | 52% |

は後で述べる。

b 分 4 2～5 の 結 果 と 考 察

分 4 2～5 は、本文 〔5〕〔の部分の文の理解力と、分 1 4 の老婆の心情を読み取る力との関係をみるために出題したものである。分 4 1と同様に本文 〔5〕〔の部分の内容理解に関係が深いだろうと思われる文を選んだ。分 4 1よりも長いことばの意味を問うたもので、分 1 4との関係はより密接であることが予想されるものである。結果は〔表 12に示したとおりである。特にめだったものについて考察する。

ア 2 について

2の正答率は51%で対象生徒の約半数が誤答したことになる。誤答したものの大部分はエの「少しでも高い値だんになるように競争させよう。」に回答している。

この問題は抽出校の生徒の地域性を事前に考え、おそらく相当の抵抗をもっているだろうと予測し、しかも、老婆の心情を読み味わう文章を正しく読み取るかなめともなる文とみて選んだ。この観点から、2の「少しでも……せり落とさせよう。」の意味が理解しにくく、しかも、この文の意味が理解できなければ、老婆の愛着をもちながら高値で売ろうとする気持ちのくみとりは困難であろうとみたのである。

しかし、正答肢アは、エよりもより正しい意味ではあるが、選択肢、エもアにかなり近い意味を持っていたためエに回答したものと思われる。

つぎに、A群、B群にかかわらず、イの選択肢に12名の約10%強の生徒が反応したことは、やはり、「せり」について理解しにくいことが地域性と関係の深いことを示している。国語の成績下位群

〔表12〕 分④ 2～5の応答結果と分① 4との結果の関係

Aは分① 4の正答者、Bは誤答者

| 分④ 2～4の問題 | 正・誤 | 選択肢・応答人数 | | | | | | A・Bの正答率 小数点以下4捨5入 |
|--|-----|----------|----|----|----|----|------|----------------------|
| | | ア | イ | ウ | エ | 無答 | 計 | |
| 2 「少しでも高値でせり落とさせよう。」 | A | 46 | 6 | 1 | 27 | 1 | 81 | 57% |
| | B | 5 | 6 | 3 | 4 | 1 | 19 | 28% |
| | 計 | 51 | 12 | 4 | 31 | 2 | 100人 | ()内%はA-B(29%) |
| 3 「そうとばかりは言えなさそうだった。」 | A | | 10 | 1 | 70 | | 81 | 87% |
| | B | 1 | 5 | 3 | 9 | 1 | 19 | 48% |
| | 計 | 1 | 15 | 4 | 79 | 1 | 100人 | (39%) |
| 4 「別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理(と言えそうであった。)と同じ心理 | A | 3 | 11 | 66 | 1 | | 81 | 82% |
| | B | 2 | 8 | 8 | | 1 | 19 | 43% |
| | 計 | 5 | 19 | 74 | 1 | 1 | 100人 | (39%) |
| 5 「最後の愛着をこめているものとも受け取られた。」 | A | 6 | 14 | 59 | 2 | | 81 | 73% |
| | B | 2 | 1 | 14 | 1 | 1 | 19 | 71% |
| | 計 | 8 | 15 | 73 | 3 | 1 | 100人 | (2%) |

の生徒はもとより、中位群の生徒にも12人中5人いたことでもうなずける。

イ 3について

3の文「そうとばかりは言えなさそうだった。」は、老婆が、「少しでも高値でせり落とさせよう」と丹精しているのにまちがいはなかった。」の文を受けて、逆接する文「自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取られた。」を統一して分① 4の正答エのd「……、よい値で売ろう。」とe「……、扱いに心をこめてたいせつにしたい。」とを結ぶ要点になっている。

この問題の正答率は79%でおおむね良好である。しかし、分① 4の正答者も含め19%の生徒がイに回答しているのが注目される。イは、「手放すときになって、最後の愛着をこめていたこと。」で「そうとばかり……。」の後に出てくる文である。「しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。」としかしの逆接の意味を持つ語に注意し、「そう」の指示する文を読み取る力が足りなかったものと思われる。しかも、イに回答した生徒は国語の成績の上位群1人、中位群に7人もいた。これらのことから、「……まちがいはなかった。しかし、そうとばかりは……。」などの文章の一つ一つの語句や文相互の緊密な関係を持つ意味把握がなされず、この点についての指導の必要性を感じる。

ウ 4について

4は「老婆の自分のねぎを高値にしたい気持ちと愛着を感じている気持ちとが入り組んだ複雑な気持ち」の例ともなる「牛や馬の仔を市へ売りに出す人の気持ち」の文によって老婆の気持ちの読み取りを確かめようとしたものである。

正答率は74%で大体予想どおりのできであった。この問題がわかることは、老婆の気持ちの書かれている文章の理解がいつそう確かであることであろう。しかし、分①4のA群に11人、B群に8人と合わせ19%の生徒がイの「牛や馬の仔を市に売り出そうとして愛情こめて育てていること」に回答した。国語成績の中位群に9人、下位群に10人で、上位群にはひとりもいなかった。

上位群にひとりも誤答者がいなかったことは、問題の指示文、選択肢を正しく読めば正答できることを傍証していると思う。面接調査の結果によれば、「同じ心理」のことばの意味がよく理解できなかったと述べてるものが多かったことから誤答の原因が推察できる。このイに回答した生徒19人中、11人も分④1(5)の「同じ心理」を誤答していたことでもうなづける。

エ 5について

5は前に述べたように生徒の中には、語句や、文相互の緊密な関係を読み取れない者がかなりの数いることと「最後の愛着をこめているものとも受け取られた。」の「ものとも」の助詞の正しい理解が分①4の回答に関係していると思われたことから出題した。

この問題の正答率は73%である。この問題は他の2, 3, 4の問題と異なり、A群とB群との正答率の差がわずか2%でほとんど同率に近い。A群中イに回答した生徒15人中、国語成績中・下位群の生徒が半々で上位群の生徒はひとりもいなかった。しかし、正答のウ「……いるようにも感じられた」と誤答イ「いるようにも考えさせられた」の問題文に対する語感のちがいを厳密に区別しにくいと思われる。ただし「……とも受け取られた」の語感は普通の場合は軽い意味に肯定したものとして「……感じられた」の方がより妥当であろう。このような意味に使われた文中の「受け取られた」などに類する語感には常に注意して指導しておく必要があらう。

以上のことを考慮しながら、A群とB群との正答率にほとんど差がなかったことは、分①4の回答に余り影響がなかったともみられる。出題の趣旨を先に述べたようにこの文の読み取り方は分①4の回答にかなりの影響があるものとみたが、結果はむしろ反対になったようである。このことは、続く「牛や馬の仔を市へ売りに行つての心理と同じ」という文を読み分①4の回答にあたり誤っていた考えを修正したからとも考えられる。

オ 分析的問題④の考察のまとめと、調査問題①4の性格

〔表12〕に図示した右側のA・Bの正答率をみると2～5のそれぞれ同じ問題でA群とB群との正答率の差が次に示すように問題ごとに大きな差のあることがわかる。

A群とB群の正答率の差の最も大きかったのは3と4である。前にも述べたとおり選択肢の文を含めた問題の内容と、対象生徒が100人という限られた数であったことから、偶然性と主観性がいっていることはまぬがれない。しかし、同問題を同生徒集団に実施した条件内で以下考察を述べよう。

分④2の差29%は問題の内容から考え分①4の回答に影響する点でかなり大きいと思われる。

「せり落とさせよう」のことばは、対象生徒の地域性を考え抵抗が多く分①4の回答に大きな影響を及ぼすものとみていたがある程度の影響があったようである。

| 分④2～5のA群、B群の正答率の差 | |
|-------------------|--|
| 2 | 「少しでも高値でせり落とさせよう」……………29% |
| 3 | 「 <u>そう</u> とばかりは言えなさそうだった」……………39% |
| 4 | 「 <u>別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやる</u> ……………39% |
| | のと同じ心理……。と同じ心理 |
| 5 | 「 <u>最後の愛着をこめて</u> いるものとも受け取れた」……………2% |

分④ 2に比べ、分④ 3・4のA群、B群の差がたいそう大きく共に39%である。このことは、3・4の問題文が⑤〔の部分の老婆の気持ちを読み取る上にたいせつな文であることを示している。

3の問題文「そうと……………」は特に分① 4の正答肢エのdとeを選ぶべき要点とも言えよう。A群の生徒の正答率が2～5中最も高かったこともうなずける。

4の問題もその差が同様に大きかったが、この問題は、分① 4の正答肢エのd・eのうち特にeの「手放すときまで、扱いに心をこめてたいせつにしたい」を選ぶ方に関係するたいせつなものと思う。

分④ 2～5は、文脈の中での意味や用法の理解に関する問題であるが、意味・用法の理解と共に、さらに拡大解釈すれば、語句、文、文章相互の緊密な関係を読み取る力をみる問題であるといえる。各問題ごとに具体例をあげ述べてきた文章の読み方についての指導をいっそう深く考える必要があると思う。

分析的研究の手順として大問から小問へと問題ごとに結果の考察を述べたが、これらの各問題が、個々ばらばらになって分① 4の正答に導くものではなく分析的問題の考察で述べた各問題の相互関係、相互浸透のはたらきの結果正答できるものと思う。したがって一つの分析的問題を誤答した生徒でも必ずしも分① 4を誤答するとはかぎらない。その反面、多くの分析的問題を正答した生徒でも分① 4を必ず正答することはいきれない複雑さをもっている。

分① 4を正答するためには、⑤〔の部分に書かれていることがらを正しく読み取ればよいことは当然であるが、次のようないろいろな文章及びその意味のからみ合いを理解しなければならない。

o 「せり」「せりのかたまり」「溜がれて」「みがききった」「引き立たせて」「高値」「せり落とさせよう」「丹精」「今まさに」「手放さんとして」「愛着をこめて」「ものとも」「受け取られた」「別れに臨んで」「毛並み」「整えてやる」「同じ心理」「言えそうであった」などの⑤〔の部分に出てくることばの意味を文脈の中で理解できること。

o 「そのうえにまたぬぐっているのだった。」

「少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。」

「しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。」

「自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして、最後の愛着をこめているものとも受け取られた。」

「牛や馬の仔を市へ売りに行つて、別れに臨んで、その毛並みをきれいに整えてやるのと同じ心理と言えそうであった。」

などの文の理解が、⑤〔の部分の文脈の中で読み取れること。

o 特に、「しかし、そうとばかりは言えなさそうだった。」のd・eのあたかも矛盾しているような老婆の気持ちを統一し、まとめていく文章の読み取りがたいせつであること。

o しかし、たとえに述べた文の理解が正しくなかったとしても、「牛や馬の仔を市……………」の文を正しく理解すれば、ここまでの読み誤りも訂正されること。

o さらに、⑤〔の部分の老婆の行為について書かれている「せりのかたまりの近づく先で……………」そのうえにまたぬぐっているのだった。」の二つの文を読んで、老婆の気持ちを選択肢とにらみ合わせても正答でき得ることなどである。

以上述べたように二・三の語句、文、文章を誤読したとしても、他の部分で誤った読み取りを訂正されるようになっているということである。二段、三段がまえで生徒の読みをただし、最後に選択肢でさらに補っている感がする。」この問題は最後の段落が読み取れていればできるのであって、比較的やさ

しいものといえよう。」と報告書にあるとおりであり、そのやさしさを分析検討すると上記のような内容をもっているからであると思う。

(3) 文学的文章における心情を読み味わうことについて

この問題のねらいは、2年の[2]4と同様に「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう力」をみるとなっている。調査問題を見、その応答を検討しているうちにこの問題は2年生の問題と比べてたいそうその内容が異なり、文学的文章の心情を読み味わうことの本質から考えてもいろいろの問題を感じた。それで、以下のことについて述べてみたい。

ただし、この全国学力調査はペーパーテスト、客観テストの方式によっており、多数の生徒を対象にし、多くの問題によりその力をみようとしたものである。このことから、この一つの問題のみをとりあげ調査問題としてのあり方について述べることも、この問題のような文章をとおして実際の指導にあたり、どのような配慮が必要かについて述べる。文学的文章の心情を読み味わう力をもつという観点からこの問題を検討したとき、つぎのような点について考えさせられた。

a 文章の中に書かれている心情を読み味わうというよりも、本文[5]〔の部分の、作者が老婆の気持ちについて書いた事がらを論理的に読み取る問題になっているのではないかということ。

b 文章の冒頭から末尾までの文章全体から、豊かに、多面的に想像や心性を働かす問題ではなく、わずかに一部の文章の表面的な読みで解ける問題であること。

c 文部省の中間報告では、「[1]4は手ぬぐいかぶりをした老婆の心情を読み味わう問題であって、正答率は82.1%で高い結果となっている。この問題は最後の段落を読み取れていればできるのであって、比較的やさしいものといえよう。」と述べている。この問題は、2年[2]4と同じねらいの問題である。しかし、2年の問題の指示文には、「……………作者が書こうとしたこと……………」となっていること、選択肢の文もそれを直訳的に解説した内容の文は本文にはないこと、応答にあたっては、本文全体を読みとおさなければ正答できないこと、以上三つの性格を持っている。これに対して、3年の問題では、指示文に「……………老婆の気持ちを表わしたものの……………」と述べ、選択肢の文は、作者が老婆の心情について述べてしまった事がらと同じ内容の文で書かれており、応答するときには表現をとおして想像したり表象化したりしなくても正答できる。ただ、さきにも述べたように応答するとき、補足的な意味では老婆のねぎをみがく行為と、牛や馬の仔を売る心理を述べているところで想像や表象化が行なわれよう。この点も含めて出題者が「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう力」をみる問題とされたのであれば、それはそれなりでよいと思う。また「心情を読み味わう力の基礎的な力をもつ」とされたのであれば、それでもよい。われわれは、人間の心情を読み味わう指導にあたり、本文を扱うとき、どのような扱い方が生徒の豊かで多面的な心性を伸ばすかを考えてみたいのである。

2年の[2]4の全国平均正答率が66.8%であるのに対して、3年の[1]4の場合は82.1%と2年と比べ大きな差があったことでも両者の問題の性格の異なることがうなずける。

d, cで述べた3年[1]4の問題の性格と関連して、その正答率は82.1%と高く、誤答の生徒は17.9%で〔表17〕でもわかるように、級中での下位群の生徒がほとんどをしめ、これらの生徒にはどのような問題を出しても成績が悪いと結論しがちになり、調査問題の応答調査だけでは上・中・下位群それぞれの思考傾向をとらえることは困難である。

以上述べた[1]4の問題をとおして考えさせられた文学的文章の心情を読み味わう指導上の問題点に

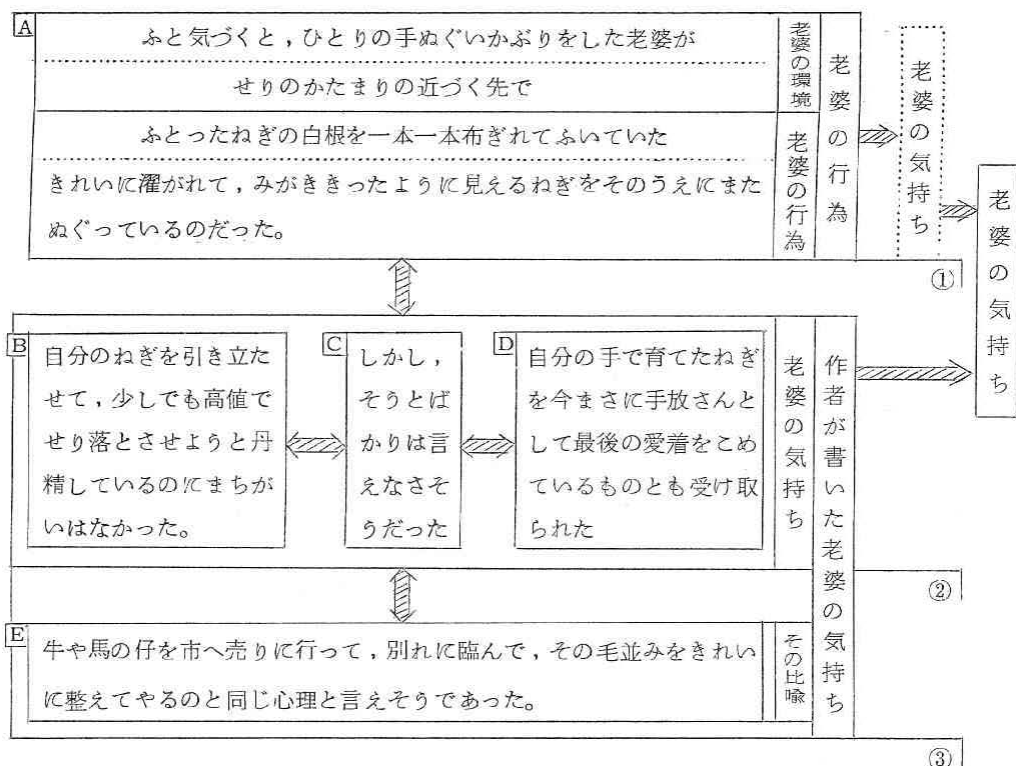
ついでに考察を述べる。

① 「文章の中に書かれている人間の心情を読み味わう」 ことについて

① 4の老婆の気持ちを読み味わうという観点から本文 ⑤ [の部分の文章を分析検討すると〔表 13〕のような文章構造が考えられる。第一に、⑤ [の部分の文の主体である老婆とその行為が A]の部分に述べられ、つぎにそれを見た作者の老婆に対する気持ちがあるが B・C・D]の部分に解説されている。そして B]の部分では老婆が自分のねぎを高値でせり落とさせようとしていること、D]の部分では B]とは対照的に自分のねぎを手放すときの愛着をもっていることが書かれ、この B・D]の内容を統一する C]の部分が中間に書かれている。さらに、B・C・D]の内容を裏付けるかのように E]の老婆の気持ちの比喻とも考えられることがらが書かれている。

したがって、老婆の気持ちは、①の段階でまず読者の想像により、②の段階では作者の老婆の気持ちの解説により、③の段階ではそれらをまとめるかのように牛や馬の仔を市に売り出す人の気持ちと同じ心理と言えそうであった。と三段がまでする老婆の気持ちを考えることができる構造になっている。

われわれは、調 ① 4のねらいから考えるならば、①の段階で老婆の気持ちを問うことが、ひとりひ〔表 13〕



とりの生徒の想像、表象化をうながす、より望ましい問題になると思うのである。この ① 4の問題は作者が老婆の心情について解説した文章を説明的文章のように指導すればできる問題である。

⑥ 「自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちはいかなかった。」の文は

- ㉑ 「野菜をきれいにふいて、できるだけよい値で売ろう。」という選択肢 d に
- ㉒ 「自分の手で育てたねぎを今まさに手放さんとして最後の愛着をこめているものとも受取れた。」の文は
- ㉓ 「手放すときまで、扱いに心をこめてたいせつにしたい。」という選択肢 e に

内容を書きかえただけにとどまっている。したがって、この [1] 4 の問題を解くときは、上のことに気がつき、選択肢 d・e の文の語句の意味がわかれば容易に正答できる。文学的文章の特質である「表現を読むことによって心に感動をよびおこし、思考をはたらかせる」必要はない。

このことは、さきの分 [2] 1 (3) の結果の集計、[表 12] を見ると明らかにわかる。[1] 4 の正答肢 d・e の裏付け調査、「[1] 4 の答えは、本文のどの表現から考えて選んだか、本文のその部分を の答えのらんに書き出せ。」の分析的問題に対して、㉑・㉒およびこれら二つをむすぶ㉓の文を書き出した 47 人全員が [1] 4 を正答し、ついで㉑・㉒の文を選んだ 17 人中 13 人が正答し、㉑・㉒を書き出した 14 人中 10 人、㉓を書き出した 5 人中 4 人が正答であり、この老婆の気持ちの説明に關係うすく、しかも他の部分の文を書き出した 17 人中わずか 4 人だけが正答であった。すなわち、㉑・㉒の文の内容と關係がうすくなる内容の文を書き出した生徒ほど正答率が低くなっていく。

以上の分析的問題の結果の考察、[1] 4 の問題のねらい、本文の構造から、[1] 4 の問題は多分にことからの読みの性格をもち、説明的文章の読解力調査に近いことを述べた。そこで、より望ましい「心情を読み味わう力を見る」問題はどうかあったらよい、さらに、このような文章の心情を読み味わう指導はどうならなければならないかについて以下述べる。

さきにも述べたように、われわれは、この本文を指導し、評価する立場からつぎの分析的問題を行なった。

分 [5] 本文の [5] [の部分の中で、老婆がねぎを一本一本ふいているのを見て、作者は、「自分のねぎを引き立たせて、少しでも高値でせり落とさせようと丹精しているのにまちがいはなかった。しかしそうとばかりは言えなさそうだった。……」と書いていますが、あなた自身は、この老婆はどんな気持ちでねぎをぬぐっているのだと思いますか。次の中から、あなたの考えに最も近いものを一つだけ選んで、その記号を○で囲みなさい。

- | | | |
|---|--------------------------------------|-----|
| ア | 自分が持ってきた野菜を少しでも高く売りたい気持ち。 | 10人 |
| イ | 自分が持ってきた野菜を少しでもきれいにし、お客を喜ばせたい気持ち。 | 8人 |
| ウ | 自分の持ってきた野菜が、高く売れないので困ったなという気持ち。 | 1人 |
| エ | 自分の持ってきた野菜が、売れ残った野菜と見えないようにしたい気持ち。 | 2人 |
| オ | これまで自分の手で育てた野菜なので、売るのが惜しい気持ち。 | 11人 |
| ㉑ | これまで自分の手で育ててきた野菜なので最後まで手をかけてやりたい気持ち。 | 68人 |

分⑤の結果は〔表14〕のとおりである。

〔表14〕 分⑤の応答結果

| 成績 \ 応答 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | 無答 | 計 |
|---------|----|---|---|---|----|----|----|-----|
| 上位群 | 3 | | | | 2 | 19 | | 24 |
| 中位群 | 3 | 1 | 1 | 1 | 8 | 39 | | 53 |
| 下位群 | 4 | 7 | | 1 | 1 | 10 | | 23 |
| 計 | 10 | 8 | 1 | 2 | 11 | 68 | | 100 |

分①4では、老婆の複雑な気持ちを作者が述べた文にもとづき二つずつ組み合わせられているために「高く売りたい気持ち」と「愛着をもっている気持ち」のいずれかに強く動いた気持ち

をもった生徒も一つだけにしぼられた場合、カの愛着の方により多く応答した。しかし、「高く売りたい気持ち」を表現した選択肢、ア・ウに11人応答している。

分①4の問題を解答するにあたって生徒の気持ちが「愛着」の方に強く動いたことがわかる。この分⑤の問題でカに回答した生徒の分①4の回答をみると、上位群のカへの回答者19人中、18人が正答、中位群の39人中、37人が正答、下位群の10人中、4人が正答している。下位群の回答傾向は、各分析的問題によってそのつど回答が乱れ傾向をとらえることが困難であるので断定はしかねるが、分①4の正答者81人中大部分の生徒約70人がカに回答していることから「愛着」に心ひかれた生徒の多いことがわかる。しかし、ア・ウの「高値で売る」意味を持っている方に回答した生徒が11人いる。このうち分①4の正答者は9人おり、残りの2人はオを選んでいることから、これらの生徒は多分に「愛着」よりも「高値で売る」方に心ひかれて回答したものと考えられる。

分⑥の感想文を見ると、カに回答した約70人中、老婆の自分のねぎに愛着をもっていることを書いた生徒が31人おり残りの生徒は老婆の心情にはふれていない。またア・ウに回答した11人中同じ感想文に「作者の言っていることはうそだ、やはり老婆も商売をする人間であるから高く売りたい気持ちの方が強いにきまっている。」などと強い語調で感想を述べている生徒が7人もいた。他の4人は、老婆の気持ちにはふれなかった。

このように、生徒はそれぞれ自分なりに回答にあたり、それ相当の根拠を持っているのである。中には、「自分の家でも豚を売った」とか、「うちのばあちゃんも野菜を市場へ売りにいく」、また、「うちでも野菜を作り、売っている」などと自分の身近な生活とひき比べて感想を述べている。これらの生徒のうけとめ方は、この文章を読み味わう正しいあり方とはいき難いが、指導に際して十分、考慮する必要がある。

このような生徒の自分なりの想像、連想などをたいせつに出させてこそ、本文章の読み味わい方の話し合いや、指導を正しい方向にもっていけると思う。こうして、ひとりひとりの生徒の豊かで多面的な人間や自然の正しい見方、考え方が育てられると思うのである。

② 「人間の心情を読み味わう」力をより豊かに多面的に伸ばすために

分①4の問題では、報告書にもあるとおり「①4は手ぬぐいかぶりをした老婆の心情を読み味わう力をみる問題であって……この問題は最後の段落が読み取れていればできるのであって……。」と本文⑤〔の部分に書かれていることがらを読み取れていればできることを述べている。しかし、われわれが指導する場合にはできるなら文章のある部分だけでなく全体の文章をとおしてより豊かに多面

的に想像をはたらかせる指導をたいせつにすることが望ましいと思う。このことからつぎの分③を行った。

分③ 本文全体をとおして、作者が書こうとしていることはどういうことか。左のアからカまでの文のうち、あなたの考えに最も近いものを一つ選んで、その記号を○で囲みなさい。

- ア 野らに直結した夜の青果市場の野菜の新鮮な美しさ^{ぱく}と、それらをめぐる人々の素朴な気持ち。 58人
- イ 野菜を売る老婆や、牛や馬の仔^こを売る人々のそれを手放すときの、まじめで、愛情こまやかな気持ち。 5人
- ウ 画学生と作者との、しんけんで美しい心の通じあい。 2人
- エ 画学生や作者が、百年かかっても寄りつけそうにはない野菜の新鮮さと美しさ。 16人
- オ 画学生と作者とが、野菜などの色どりを、いきいきと、絵に表現しようとして 14人
いるしんけんな態度。
- カ 夜の青果市場でのせりの様子や、やお屋たちのいそがしさ。 3人

無 答 2人

分③の応答結果は〔表15〕のとおりである。

この複雑な文章をみじかい一文でまとめた選択肢にはいろいろと問題が多いと思われるが、生徒のこの文章から感じ取るものはどんなことか、また、どんな感じ取り方をするかをみるために作成したものである。

作成にあたって、一 [表15] 分③の応答結果

応アを正答と仮定して出題したが、結果はやはりアに多くの生徒、58人が応答した。アの選択肢の内容には、青果市場にある新鮮な野菜をめぐって、美し

| 成績 \ 応答 | ア | イ | ウ | エ | オ | カ | 無答 | 計 | 正答率 |
|---------|----|---|---|----|----|---|----|-----|-------|
| 上位群 | 18 | | | 2 | 3 | 1 | | 24 | 75.0% |
| 中位群 | 29 | 5 | | 11 | 8 | | | 53 | 54.7% |
| 下位群 | 11 | | 2 | 3 | 3 | 2 | 2 | 23 | 47.8% |
| 計 | 58 | 5 | 2 | 16 | 14 | 3 | 2 | 100 | 58.0% |

さや素朴さに大きな関心をよせている作者、また、しんけんにそれを絵に表現しようとしている画学生、野で働き野菜を売って生活していると思われる老婆、市場に働いているせりの人々やお屋などさまざまな個性をもった人間と自然とがおりなす多様なものがもられている。

このような複雑で多面的なものを抽象して選択肢を作成したので、調①5などの問題と同様にこの点からくるむずかしさがあつたろうと思われる。アへの応答率や、上・中・下位群の応答分布からみてアが妥当と言える。

つぎに応答の多かったエの16人、オの14人、イの5人は、いずれもアの内容を述べたときとりあげた「画学生と作者」に関すること、「老婆」に関することに限られた文であり、何か断片的な感じ方をしていることは否定できない。ここで特にめだつたことは、老婆に関することよりも画学生もしくは、作者に関する選択肢の方により多くの生徒が応答したことである。

ア以外の選択肢に応答した生徒については、文章を自分の身近な生活や興味関心にとらわれた目で読み易いことに注目する必要がある。もっと文章の表現に即し、書かれている事がらのより多くの内容に着目し、早急に決論づけず、豊かに多面的に読み取る力を養う必要がある。一方、感想文にもあらわれたように一つの文章のいろいろの内容についてひとりひとりの生徒が着目していることも忘れてはならず、指導においては、このような生徒の様相を早くとらえ話し合いや指導によって生徒の着目したことについて文章の表現と照応させ、速断せず、多面的な見方、考え方をもとにし生徒に豊かな間接経験を体験させ、生徒の心の変革を図ることがたいせつであると思う。

〔表 16〕

この文章を読んだ生徒の感想文を分析すると、〔表 16〕のようになり、老婆は調査問題にしばしば引用されたので先入観もはいつていようが、野菜、画家、作者、百姓、せりの人たちと多方面に関心を示している。つぎにこの文章を読んで生徒が強く感じ取ったことがらを類型別にまとめると〔表 17〕のように、各人各様に想像や表象化を行なっていることがわかる。このように多面的で、

| 最も印象深かったものとしてあげた内容 | |
|--------------------|-----------|
| ○ 老婆に関するもの | 67人 |
| ○ 野菜の新鮮さ美しさに関するもの | ... 50人 |
| ○ 市場の様子に関するもの | 35人 |
| ○ 百姓ややお屋の労働に関するもの | ... 15人 |
| ○ 画家や作者に関するもの | 23人 |
| ○ そ の 他 | 10人 |

人数は延べ人数

しかも豊かに表象し得る教材によって、いろいろの角度から生徒の想像を働かせ経験を広め人間や自然の見方、考え方を深めていくことがたいせつである。〔表 17〕の感想は100人の生徒が述べたものを、一応類型別にならべたのであり、項目によっては数人の生徒が重複している。これらの感想をみる

〔表 17〕

- 老婆の野菜に対する愛情にうたれた。
- 自分もこんな美しい野菜のある青果市場へ行ってみたい。
- 客を喜ばせようとしている老婆のあたたかい心に感心した。
- 自然の美しさと、人間の愛情の美しさに感銘した。
- 一人前の絵かきになることは並たいていのことではできない。
- われわれもこの老婆のように物をたいせつにとりあつかうべきだ。
- 苦労することは、画家、百姓を問わず人間にとってはたいせつなことだ。
- 物を作る人々のことばで言いあらわせないほどの喜びのあることを知りうれしかった。
- 青果市場の美しさが目に浮んでくるようだ。
- 人間以外のものもたいせつにする世の中にしたい。
- 人間は自分本位の考え方をするものだから、老婆もねぎを高く売りもうけたいはずだ。
- 市場ではこんなにも競争するものか、老婆や働く人々がかわいそうだ。
- 野菜売りも牛売りもこんなに苦労して売るのはかと思うとうんざりする。
- 自分の子を母が愛するようにねぎをかわいがっているのがほんとうの人間の姿ではないか。
- 自分も野菜を絵に書こうと思うが、思うようにきれいな色が出せない。

- 画学生のまじめな表現意欲には感心した。
- この人々のように自分もまじめに仕事にはげみたい。
- 野菜を作るのは百姓だけに与えられた喜びだ。
- 作者の様に鋭い目で物事を見たい。
- 作者と画学生の美しさに対する熱心さ、芸術家の熱心さに感心した。
- 高値で売ろうとする考え方は悪い。人間が信じ合うならこんな考えはなくなる。
- 野菜の美しさを見ると百姓もりっぱな芸術家だと思う。
- 汗を流して野菜を作る百姓の姿が目につく。
- 常に食べている野菜を売る人たちの心がわかりありがたく思った。
- 子どもがお金に困っているので高く売ろうとみがいている。肉体労働の所産を高く売りたい。
- 老婆の気持ちは愛情をこめているのか、高く売りたいのかよくわからない。
- 私たちの市場も老婆のいる市場のようにきれいな野菜を売ってほしい。

と、多面的に感想を述べているが、もちろん、自分の身近な生活とひき比べ、あるいは自分なりの興味、関心にとらわれているもの、鑑賞的、道徳的立場にまで立って述べているものもある。しかし、これがこの文章を読んだ生徒のありのままの受け取り方だとしたら、われわれはこれらの生徒を指導するための教材観と指導のあり方をこれにそって検討しなければならない。直ちに道義的に物事を見ようとする生徒、身近な生活と比べて考える生徒、芸術的な面のみを追究する生徒、否定的な見方をする生徒等さまざまである。これらの中から、少なくとも、この文章の表現に即して発想したとらえ方や、この文章のいろいろの内容にふれているものをたいせつにし、文章全体から読み取ったものを中心に話し合いなどにより指導していきたいと思うのである。

Ⅳ ま と め

○ 調査問題 ① 1・2・3・5・4と考察を行ってきたが、各問題の考察で述べたように、今後の指導で最もたいせつにしなければならないことは、語なり、句なり、文なりがもっている文章中におけるはたらき、別なことばで言えば語感を正しくとらえさせることである。「巧みに」と「いきいき」と「美しく」の各語は、絵に表現することについての修飾語として似たような意味をもっていると思われる。しかし、これらの似ていると思われる各語は、文章の中で他の語と緊密な関係をもって表現されたとき、非常に異なったはたらきをもつのである。辞書的な意味ではなく、文章の中で、他の語との関係のもとに具体的にとらえさせることを強調したいのである。

○ つぎにたいせつな点は、語句と語句、文と文、文章と文章の関係を表面的にではなく、内容的にとらえた読み取り方の指導である。

この調査問題に例をとると、①〔の部分の会話形式の文章表現をていねいに読んでいけば、画学生の新鮮な野菜を絵に表現しようとしている苦心がわかり、③〔の部分の に入れることは選りやすく、また、「かれが、たとい百年かかってもしよりつけそうにはない美しさだった」の内容理解もできるはずである。

問題の指示文に野菜の色が出ていたから、選択肢も野菜の色に関係したものを選ぶというような表面

的な関係把握だけに目をつけた指導におわらぬよう留意しなければならない。

0 第三には、さきにも述べたように、文章のすじを追うことよりも、語と語、語と文、文と文章などの関係をみる指導をたいせつにしたいということである。これについても調査問題の例をあげると、

① 5で述べたように、本文はもちろん、問題の指示文、選択肢の文を考え合わせたうえ、さらに本文をていねいに読む指導をすることである。このことは調査問題の解き方に例をとったのであるが、平素の指導に上のような考え方をふまえて指導していきたいことをいうのである。

0 以上の基本的な力をつけておいてこそ、つぎの文学的文章を読み味わうことも正しくできると思う。

心情を読み味わうことについては、調 ① 4で述べたのでさらに詳述はしないが、この文章では、自然の美しさと、いろいろな人間がおりなす、芸術性、教育性、道徳性、生産性をもつものが統一された姿で生徒にとらえられ、それによってひとりひとりの生徒の人間の心性が変革される指導でありたい。

単に老婆がねぎに愛着をもっているなどのことが、おうむ返しのように生徒から応答してくるのみの指導は注意すべきであろう。そこには、生産の喜びもあり、また高値で売ろうとする心のはたらくことも当然考えられるであろう。作者は単に、野菜や老婆の心の美しさを表現しようとしているのだという作品の解釈にとどまらず、より多面的に、教育的な面からも、また生産的な面からも考えて指導していきたいと思うのである。

(沢 田 勉)